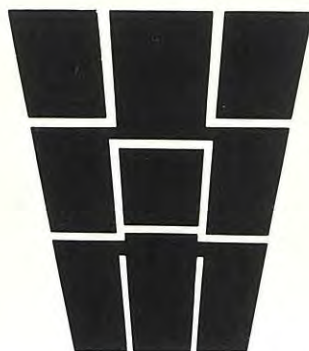




たてがみ
1976

愛知県常滑市



市 章

(昭和30年6月制定)

常滑市の「常」の字を、
杉本健吉氏が図案化したも
ので、市民の団結と市勢の
発展が表わされている。

表 紙

自然釉三耳壺(国指定重要民俗文化財)

非常におだやかな姿であるが、
泰然とした平定を見せてその姿が
素晴らしい。

砂交りの荒土の赫々とした肌にグ
リーンの灰釉の流れが目醒める
ような美しさである。

目次



市の木“クロマツ”

みどりを育て、みどりを守り、みどり豊かな住みよい都市づくりのために、昭和49年3月、市制20周年を記念して市の木に「クロマツ」が選定された。

クロマツは、当地方で山林・防風林・庭木等としては幅広く活用、親しまれており、常滑市にふさわしい樹木である。

発刊にあたって	1
躍進する常滑市	
伸びゆく常滑	2
市の生いたち	3
位置	4
人口	5
市民福祉のために	
行政	6
市役所の組織	7
市議会	8
財政	10
モーターボート	11
市民病院	12
陶芸研究所	13
上水道	15
産業	
工業	16
商業	20
農業	22
水産	24
新しい都市づくり	
土木建築	26
ゆたかな環境	
公園	29
すこやかに育て	
学校施設	30
市民体育会館	32
市立図書館	33
学校プール	34
学校給食共同調理場	35
明るくゆたかに	
保育園・社会福祉	36
養護老人ホーム	38
マザーズホーム	38
公営住宅	39
よりくらしよく	
衛生	40
安全なくらし	
交通安全	42
防火と救急	44
市民の安全を守る	45
市民のくらし	46
観光	48
文化財	50
官公署・市内案内図	52
常滑音頭・常滑小唄	54

発刊にあたって

常滑市長 久田 慶三

市制施行以来、きびしい財政事情のもと伊勢湾台風による被災など、かずかずの困難を克服し、試練を乗り越えて、調和のとれた地域の振興、健康で明朗な市民生活の向上を指標に、学校施設の整備充実、保育園の建設やめぐまれない方々への福祉拡充、医療や健康増進のための施設整備、道路河川、土地改良等の建設事業あるいは地元産業の振興等、最大の努力を傾注してまいりました。

かえりみて感慨あらたなるものがあり、皆さま方のご高配に対し改めて厚くお礼申し上げます。

さらに、市民福祉の諸事業を始めとし、基盤総合整備事業、常滑駅前整備事業、都市計画街路の推進、町名地番の変更、交通事故防止対策等々、各分野にわたって一步一步着実に推進いたす所存でございますが、最近のきびしい社会経済情勢は当市の行政分野にも及び、かつてない幾多の困難をもたらしております。

都市づくりへの道は遠く、前途には多くの問題が山積みしておりますが、市議会を始め、5万6千市民と一体となり、着実に成し遂げ、力強く前進してゆきたいと考えております。



躍進する常滑市

伸びゆく常滑

市制施行後は、新市として都市的形態を整えるため社会基盤整備のための行政需要がいちじるしく増大し、加えて財政自主再建の適用、伊勢湾台風をはじめ相つぐ大災害など悪条件が重なり、行政的にも財政的にもきびしい受難の時期がつづいた。

しかし間もなく競艇事業が好転し、また、災害の復旧事業もきわめて順調に進捗したので、その後は学校、保育園、公民活動施設、道路橋梁、環境衛生、産業の近代化など生産と生活環境の整備に飛躍を遂げることができた。ことに、市民体育会館、市庁舎、図書館、陶磁器会館、商工会館と近代的各センターの完成が相つぎ、大曽大公園建設も順調に進み、さらに駅前広場整備、基盤総合整備の2大事業をはじめ、環境の整備、住民福祉の安全と向上のためのいくつかのプロジェクトが具体化され、一步一步着実に進捗している。

中部圏の要である中京広域圏の一核として、また、豊かな開発可能性を有する伊勢湾に臨む新興都市として、常滑市の担う役割はまことに大きくその前途は洋々たるものがある。



市の生いたち

本市は昭和29年4月1日、常滑町、鬼崎町、西浦町、大野町および三和村の4町1村が合併して誕生した。

その後、南部に隣接した小鈴谷町のうち、大谷、小鈴谷、広目及び坂井の4地区が昭和32年3月31日に市域に加わり、現在の常滑市となった。

以前の歴史をさぐると、往古、漁労の民が海岸沿いにあるいは海を渡って当地に住みついたと想像される。

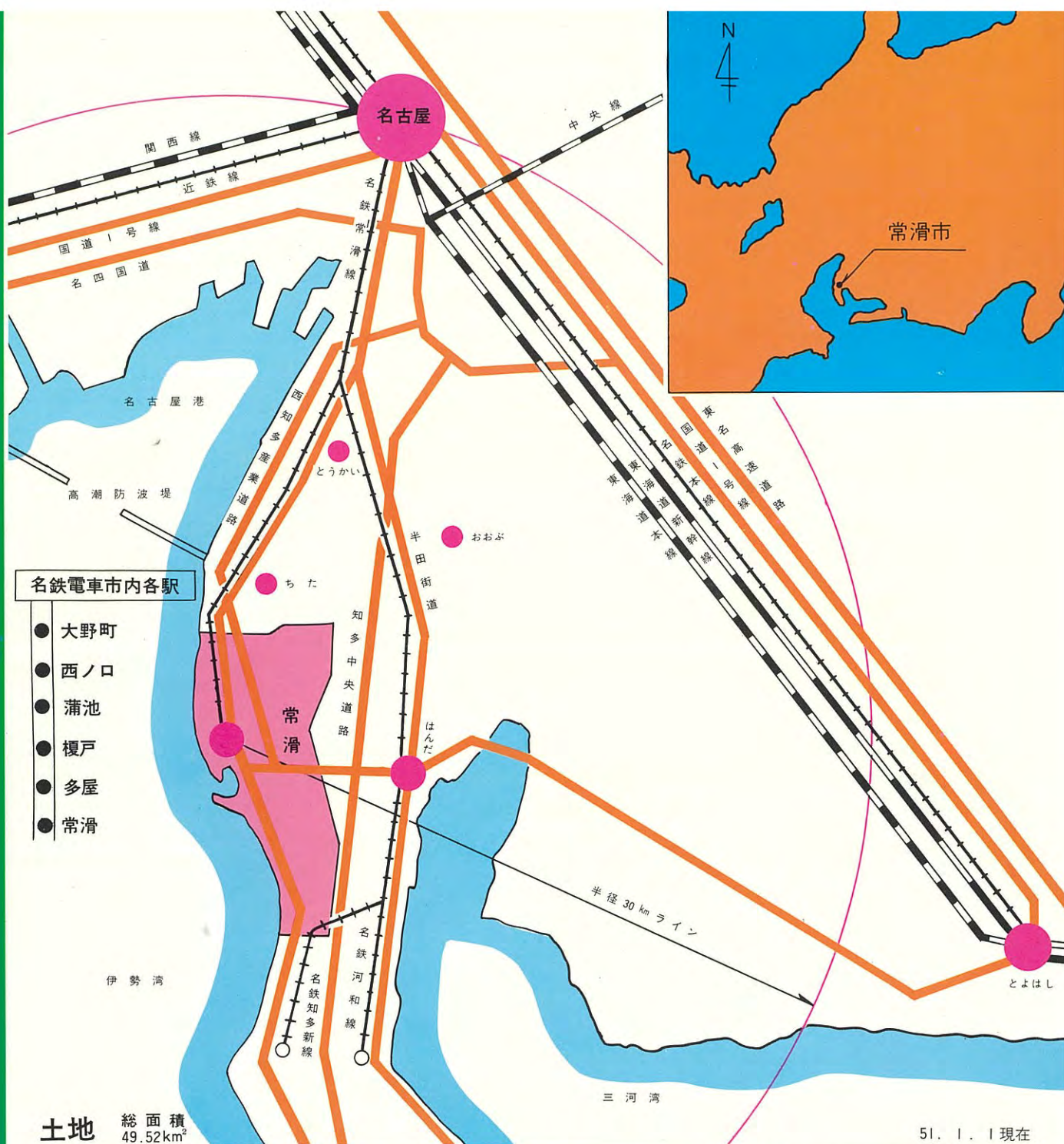
和名称には知多郡贅代郷の地と記されており、永正4年（1507年）の宗長宇津山記には「伊勢の国多気より大湊に出て、尾張の国知多郡常滑という津に渡る」とある。

戦国時代を経て江戸時代には尾張藩の治下にあり、維新後は名古屋県、額田県、そして愛知県に属した。

本市の地名「常滑」については、万葉集にも用例があり、学説では「常」は床の義をとり、「滑」は滑（なめらか）の義にとるのが妥当であるとされている。古来当地は岩王盤の露出が多く、その性質はなめらかになっており、この岩王盤全体をも「とこなめ」と呼び習俗を生んだものとされている。

位置

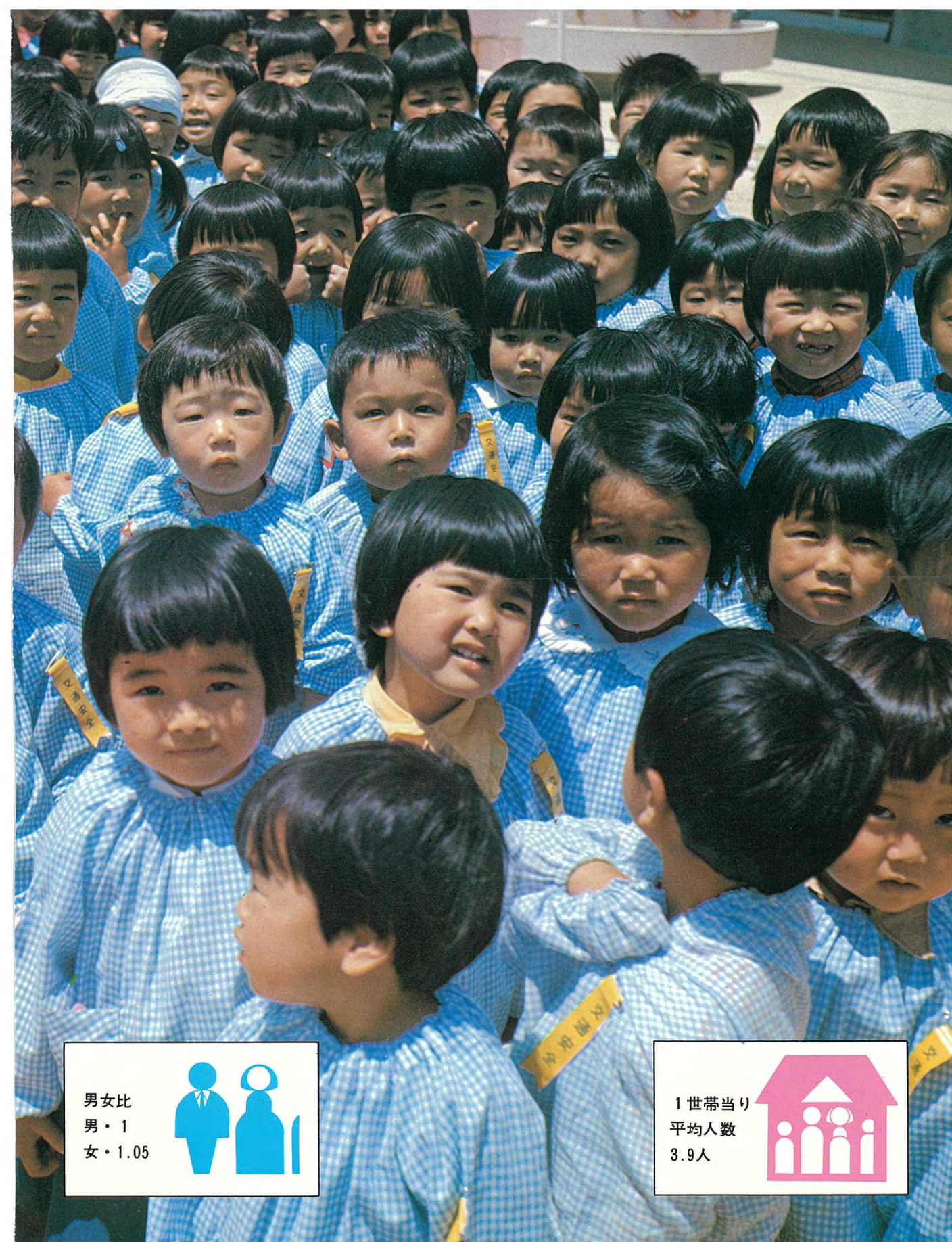
本市は愛知県の知多半島、西海岸中央部にあって、東経136度50分、北緯34度54分に位置し、東西6.1km、南北15km、面積49.52km²、西は伊勢湾に面して平たん地が続き第4期沖積層であり、東は半島の背骨ともみえる第3期層の丘陵地帯で半田市、武豊町との境をなしている。海岸沿いに市街地を形成し、伊勢湾は漁業に、平たん地は商工業に、そして丘陵部は農畜産にとめぐまれた地理条件にある。中部圏の核心名古屋中心部へは電車で40分の距離にある。



土地 総面積 49.52km²

51.1.1 現在

田 1,189Ha	畑 758Ha	宅地 689Ha	山林 904Ha	原野 105Ha	池沼 140Ha	その他 1,167Ha



男女比
男・1
女・1.05



1世帯当り
平均人数
3.9人



人 口

昭和29年4町1村による市制施行時の人口は42,979人、その後32年に小鈴谷町を合併49,800人となった。過去5ヵ年の増加率を見ると自然増が1%、社会増が0.6%減となっており、緩慢な増加である。

人口の推移 (各年4月1日現在)

区 分 年	人 口			世帯数
	男	女	計	
29年	19,999	22,980	42,979	8,482
30年	20,135	23,078	43,213	8,509
32年	22,526	27,274	49,800	9,469
35年	23,182	27,440	50,622	9,905
40年	25,140	27,944	53,084	11,340
45年	26,049	27,994	54,043	12,643
50年	27,000	28,495	55,495	13,643
51年	27,137	28,564	55,701	14,450

市民福祉 のために

行政

本市は、知多西地方中心の都市としてこの地方における行政、経済、学術及び文化の中心をなしている。

明るい市民サービスと言行一致の市政をモットーに、教育文化の振興、道路・港湾の整備拡充あるいは民生の安定また交通安全対策の推進等、住民の福祉向上のため充実した行政がなされている。



助役 竹内七郎 市長 久田慶三 収入役 平野昭三

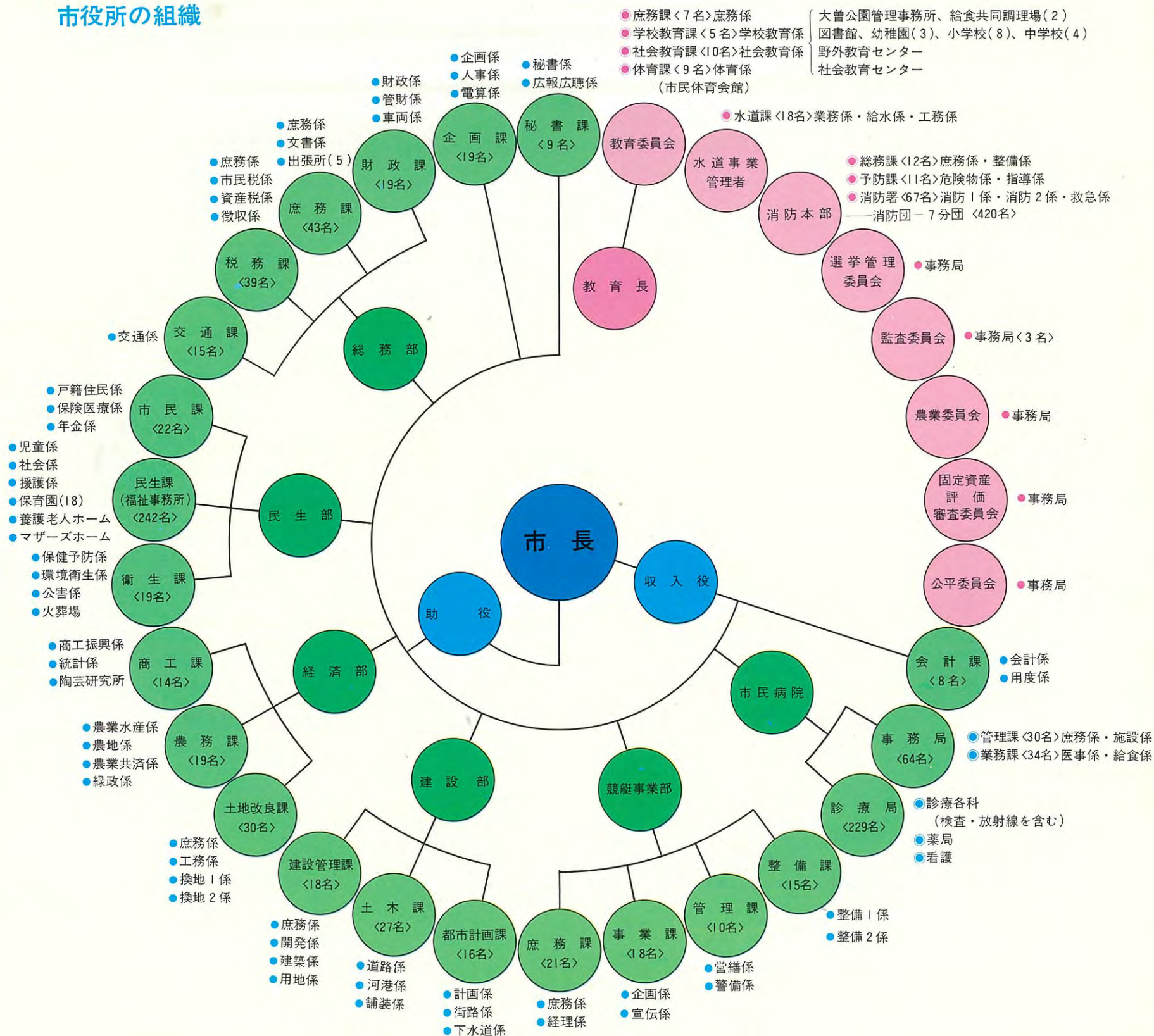
歴代助役	
氏名	就任期間
伊奈四郎	29.5.7～32.1.21
久田慶三	30.9.28～34.3.5
山田滝一	34.6.29～38.6.28
服部正次	38.10.25～50.2.20
竹内七郎	50.5.28～在任中

歴代市長	
氏名	就任期間
伊奈長三郎	29.4.25～30.3.5
滝田次郎	30.3.27～34.3.26
久田慶三	34.3.27～在任中

歴代収入役	
氏名	就任期間
山田滝一	29.5.7～34.6.28
平野昭三	34.6.29～在任中



市役所の組織



市議会

市議会は市民から選ばれた市議会議員30名で構成され、市の意志を決定する議決機関です。

議会は年4回の定例会と必要に応じて開かれる臨時会とがあります。議会の審査機関として総務、文教民生、経済、建設の4つの常任委員会が設けられている。



議長 山田 竹士

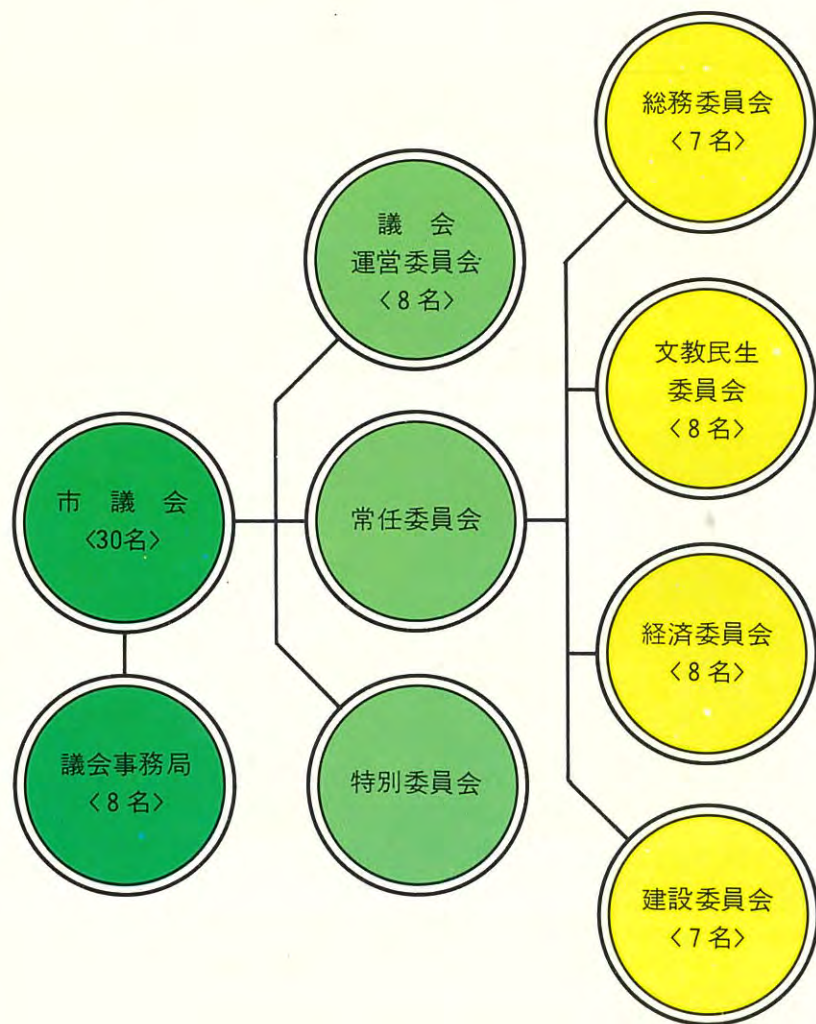
副議長 相武喜久四郎

歴 代 議 長		
氏 名	就 任 期 間	
八 木 虎 雄	29. 4. 10	32. 4. 8
杉江達太郎	32. 4. 8	33. 4. 4
井 上 健 一	33. 4. 4	34. 3. 31
稲葉民治	34. 4. 2	36. 4. 1
久田金蔵	36. 4. 1	38. 3. 31
沢田良蔵	38. 5. 7	42. 4. 29
山下治二	42. 5. 8	43. 5. 8
村上一良	43. 5. 8	44. 5. 9
沢田良蔵	44. 5. 9	46. 1. 22
村上一良	46. 1. 22	46. 4. 29
山下治二	46. 5. 7	47. 4. 27
村上一良	47. 4. 27	48. 5. 8
沢田民四郎	48. 5. 8	49. 5. 8
山下治二	49. 5. 8	50. 4. 29
村上一良	50. 5. 9	51. 5. 10
山田竹士	51. 5. 10	在 任 中

歴 代 副 議 長		
氏 名	就 任 期 間	
水上義介	29. 4. 10	30. 3. 31
杉江達太郎	30. 4. 5	32. 4. 8
井 上 健 一	32. 4. 8	33. 4. 4
山本広志	33. 4. 4	34. 3. 31
久田金蔵	34. 4. 2	36. 4. 1
村上一良	36. 4. 1	38. 3. 31
都築治郎兵衛	38. 5. 7	40. 5. 1
伊奈嘉蔵	40. 5. 1	41. 11. 1
山下治二	41. 11. 1	42. 4. 29
沢田民四郎	42. 5. 8	43. 5. 8
相羽友弥	43. 5. 8	44. 5. 9
伊藤九郎	44. 5. 9	45. 5. 8
村上一良	45. 5. 8	46. 1. 22
相羽友弥	46. 1. 22	46. 4. 29
夏目善男	46. 5. 7	47. 4. 27
山本国夫	47. 4. 27	48. 5. 8
伊藤好一	48. 5. 8	49. 5. 8
山田竹士	49. 5. 8	50. 4. 29
土井太郎	50. 5. 9	51. 5. 10
相武喜久四郎	51. 5. 10	在 任 中



〈議席順〉



市議会議員

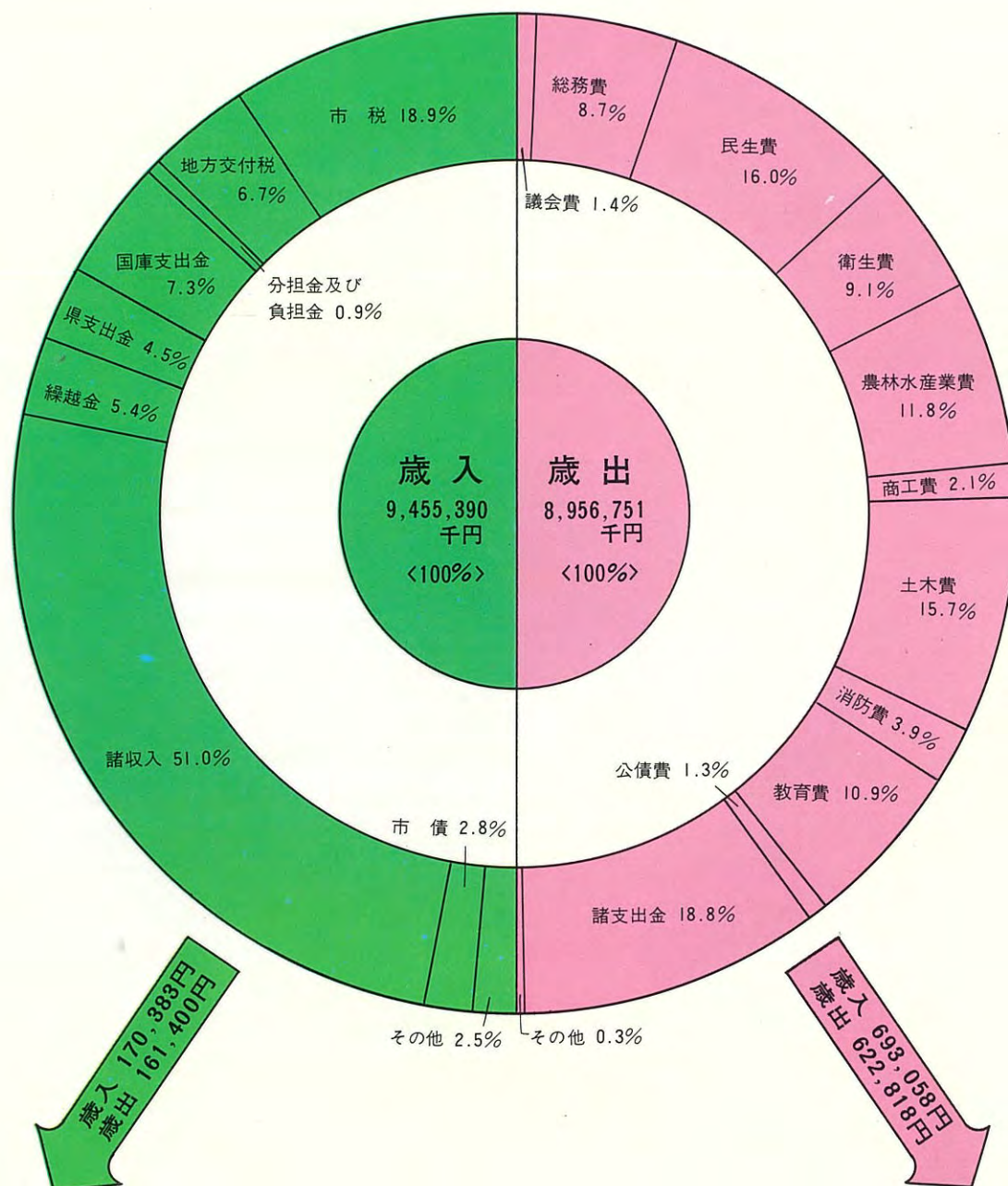
51. 5. 10現在

議席	氏 名	党派別	職 業	年 令	住 所
1	片 山 宏	無所属	農 業	43	常滑市久米字東郷199番地
2	間 野 由 和	"	"	50	" 樽水字上松74番地
3	鈴 村 庸 夫	"	会 社 役 員	50	" 字中道11番地
4	竹 内 進	"	農 業	53	" 金山字菖蒲池75番地
5	桑 山 金 義	"	食 品 販 売 業	56	" 金山字猿堂18番地の2
6	相 武 九 一	"	農 業	56	" 多屋字名残 ⁵ 合番地
7	片 山 貞 一	"	会 社 員	54	" 久米字東郷110番地の1
8	村 上 牧 男	公明党	住宅機器設備業	50	" 字向田32番地
9	沢 田 信 也	日本共産党	市 議 会 議 員	41	" 大谷字奥条37番地の2
10	庭 瀬 健 太 郎	"	"	44	" 字鯉江新開225番地
11	伊 藤 政 雄	無所属	L.Pガス販売業	61	" 大野町4丁目116番地
12	前 田 弟 二	"	市 議 会 議 員	64	" 字古千代 35 番地の15
13	相 羽 斌	"	農 業	65	" 小鈴谷字北山下12番地
14	市 田 豊 三 郎	"	"	68	" 大谷字浜條76番地
15	稲 葉 民 治 郎	"	"	45	" 多屋字地先 2 番地
16	稲 葉 務	"	会 社 社 長	49	" 古場字栗下前27番地の 5
17	水 野 喜 一	"	農 業	51	" 蒲池町 2 丁目 26 番地
18	伊 藤 涉	"	"	53	" 榎戸字金荒子227番地
19	杉 江 武 寿	"	製 陶 業	64	" 字山方100番地
20	関 一 雄	"	味噌、醤油製造販売業	40	" 字北郷128番地
21	夏 目 善 男	"	農 業	59	" 古場字坪根17番地の 1
22	土 井 太 郎	"	市 議 会 議 員	65	" 西阿野字忠田43番地の 3
23	古 川 三 十 郎	"	"	68	" 字平井口51番地の33
24	相 羽 友 弥	"	代 表 社 員	53	" 字北屋敷127番地
25	加 藤 重 三	"	会 社 役 員	64	" 大野町 3 丁目 3 番地
26	伊 藤 好 一	"	出 版 業	66	" 大野町 1 丁目 39 番地
27	村 上 一 良	"	農 業	59	" 矢田字東根組13番地
28	山 下 治 二	"	"	62	" 西之口 6 丁目 81 番地
29	相武喜久四郎	"	"	67	" 多屋字森西105番地の 1
30	山 田 竹 士	"	会 社 社 長	53	" 字口田46番地の 5

財 政

昨今の社会経済情勢は非常に厳しいものがあり、住民の行政に対する要望も多種多様化し、財政需要もますます増大し、地方行政はどこもかしこも深刻な財政危機に直面している。

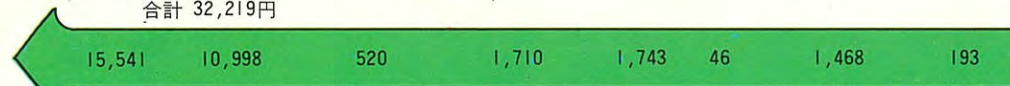
このような情勢下において、市政は市民の幸福を究極の指標として地場産業の振興、生活環境の向上、市民福祉の充実、ゆとりある教育の推進等に努めている。



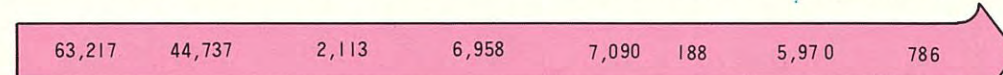
歳入 170,383円
歳出 161,400円

歳入 693,058円
歳出 622,818円

50年度決算のうち市税1人当り負担額
合計 32,219円



市民税 固定資産税 軽自動車税 たばこ消費税 電気税 ガス税 都市計画税 特別土地保有税



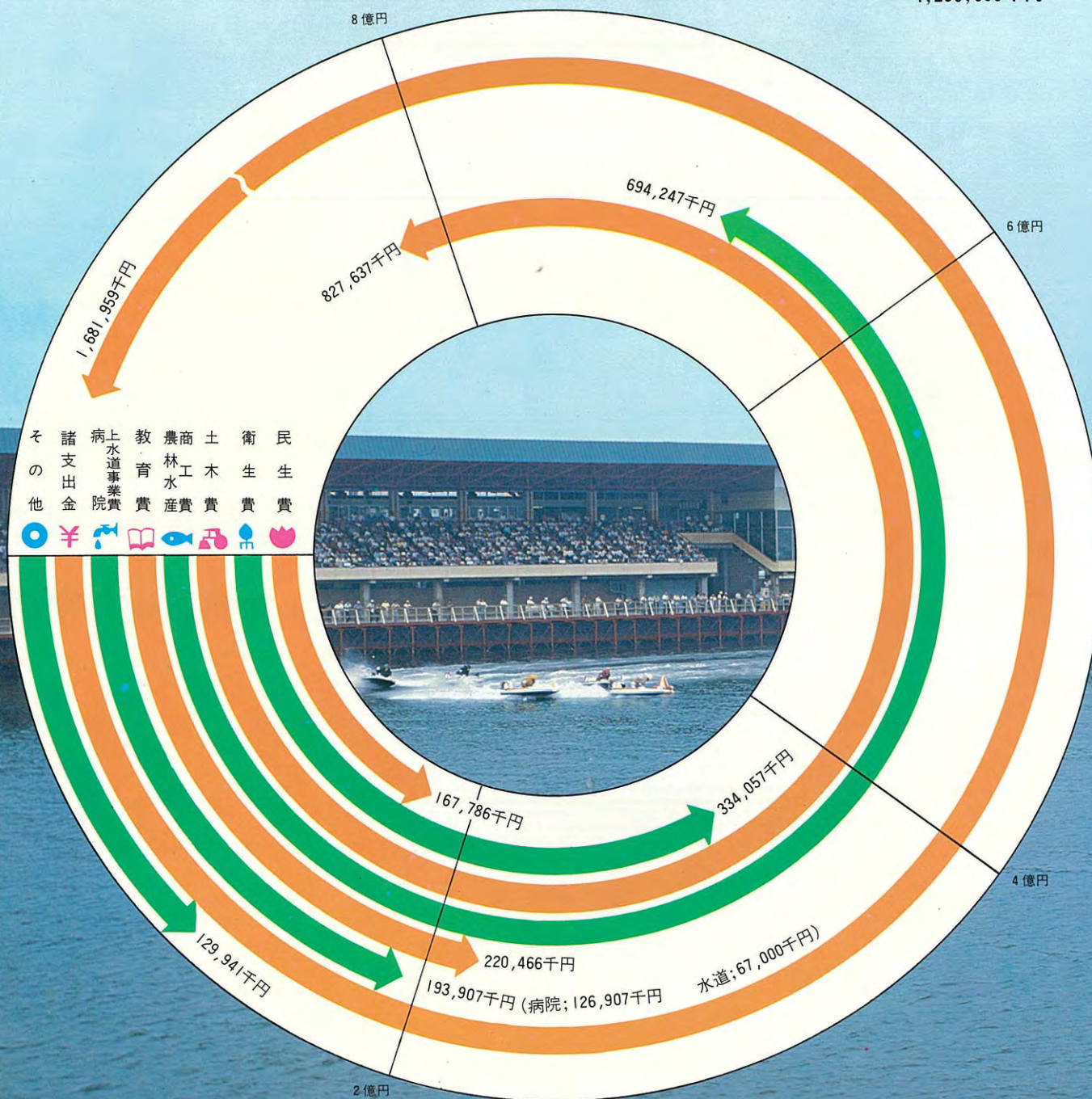
50年度決算のうち市税1世帯当り負担額
合計 131,059円



昭和50年度収益金使途状況

他会計操出金合計

4,250,000千円



モーターボート

昭和30年代の中頃より国民のレジャーへの欲求度が高まる中に、競艇事業は大きく伸展したが、いわゆる石油ショック以降の日本経済の停滞並びに、それに基づくレジャー志向の変化等に伴い、近年は売上額、及び入場人員ともに伸び率はやや鈍化している。

しかし、当事業の収益金が本市財政面に大きく貢献していることに変わりなく、不可欠な財源として、当事業に対する認識は一層深まってきた。

又、モーターボート競走法の趣旨にのっとり「レース場はファンのものであり、関係者はそれをお預かりしているのである」という運営は、今後も持続され、ますます健全な大衆レジャーのひろばとして発展することが期待されている。

市民病院

昭和34年5月開院以来、西知多地域の基幹病院として、市民、患者の立場で整備されて来た総合病院である。医師を始め多数の優秀なスタッフを揃え、診断面においては、中央検査科を充実し、放射線科ではX線テレビ連続撮影装置を駆使し、ラジオアイソトープの分野でも完備している。また、治療面では近代的な医療機械設備が充実され、中央病歴室では、患者の病歴がしっかり把握されている。

更に新しい医療需要にこたえるため、リハビリテーション施設の設置、小児病棟の整備も進められ、理想的な病院をめざして努力が続けられている。





陶芸研究所 小高い常石の丘の上、近代的なこの研究所の中で、日本6古窯の一つ「古常滑」の伝統を受け継ぐ陶芸家たちが、日夜研究に、制作にせっせと励み、伝統陶芸の保持、作家の育成など、その振興に大きな役割を果たしている。

ダイナミックな古常滑の展示は、内外の見学者多数を集め、近年陶芸愛好の風潮とともにその数は年々増加している。



市陶磁器会館

昭和45年10月、陶磁器業界のセンターとして設置された常滑市陶磁器会館は、3階に会議室、2階には業界各関係組合、1階では常滑市を訪れる人々に常滑焼の展示紹介、ならびに即売がなされ、一方、関係者の取引のあっせん場として関係者はもとより外来者にも広く利便がはかられている。



県常滑窯業技術センター

昭和43年10月、建設された本センターは、県下の窯業界に於ける今日の問題、明日の研究課題を選定し、専門分野に於いて試験研究を進め県下中小企業の技術研究の共同施設の役割を果たしている。

また、だれでも気軽に各種施設が利用でき、研究、試験、分析などの依頼に応じるとともに意匠図案および試作等がなされている。

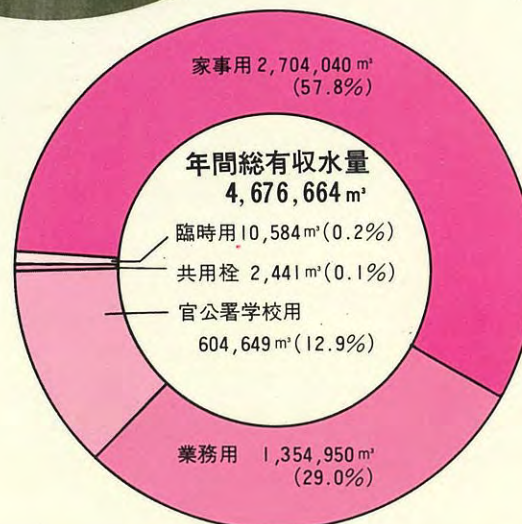




久米浄水場

水道の現在と将来(目標年次 昭和55年)

項 目	年 次		指 数	
	昭和50年	昭和55年	昭和50年	昭和55年
総 人 口(人)	55,701	68,000	100	122
給 水 人 口(人)	51,494	64,000	100	124
普 及 率(%)	92	94	100	
1人1日平均給水量(ℓ)	288	355	100	123
1日平均給水量(m³)	14,821	22,720	100	153
1人1日最大給水量(ℓ)	405	500	100	123
1日最大給水量(m³)	20,840	32,000	100	154
年間総配水量(m³)	5,409,758	8,292,800	100	153
年間総有収水量(m³)	4,676,664	7,131,800	100	152



上水道

近代都市の必須条件であり、文化生活のバロメーターともいわれる上水道は、愛知用水上水道計画により、昭和32年12月、厚生省の認可を受け着工し、昭和37年2月完成、愛知県営久米浄水場から供給され、全市域に給水されている。この完成により、従来の市営ならびに組合営の簡易水道はすべて整備統合され運営の一元化が実現された。

さらに第1期拡張事業は昭和40年1月に完成、給水人口4,500人増を確保、第2期拡張事業は昭和50年を目標に給水人口19,500人増が見込まれ、1人1日最大420ℓ、1日最大給水量24,000m³の事業で昭和41年に着工され、49年度に完成した。年々増大する水需要に対処するため、引き続き第3期の拡張事業が昭和55年を目標に給水人口7,000人増、1人1日最大500ℓ、1日最大給水量32,000m³の計画で昭和49年度から5ヵ年計画で実施され上水道の確保がなされている。

産 業

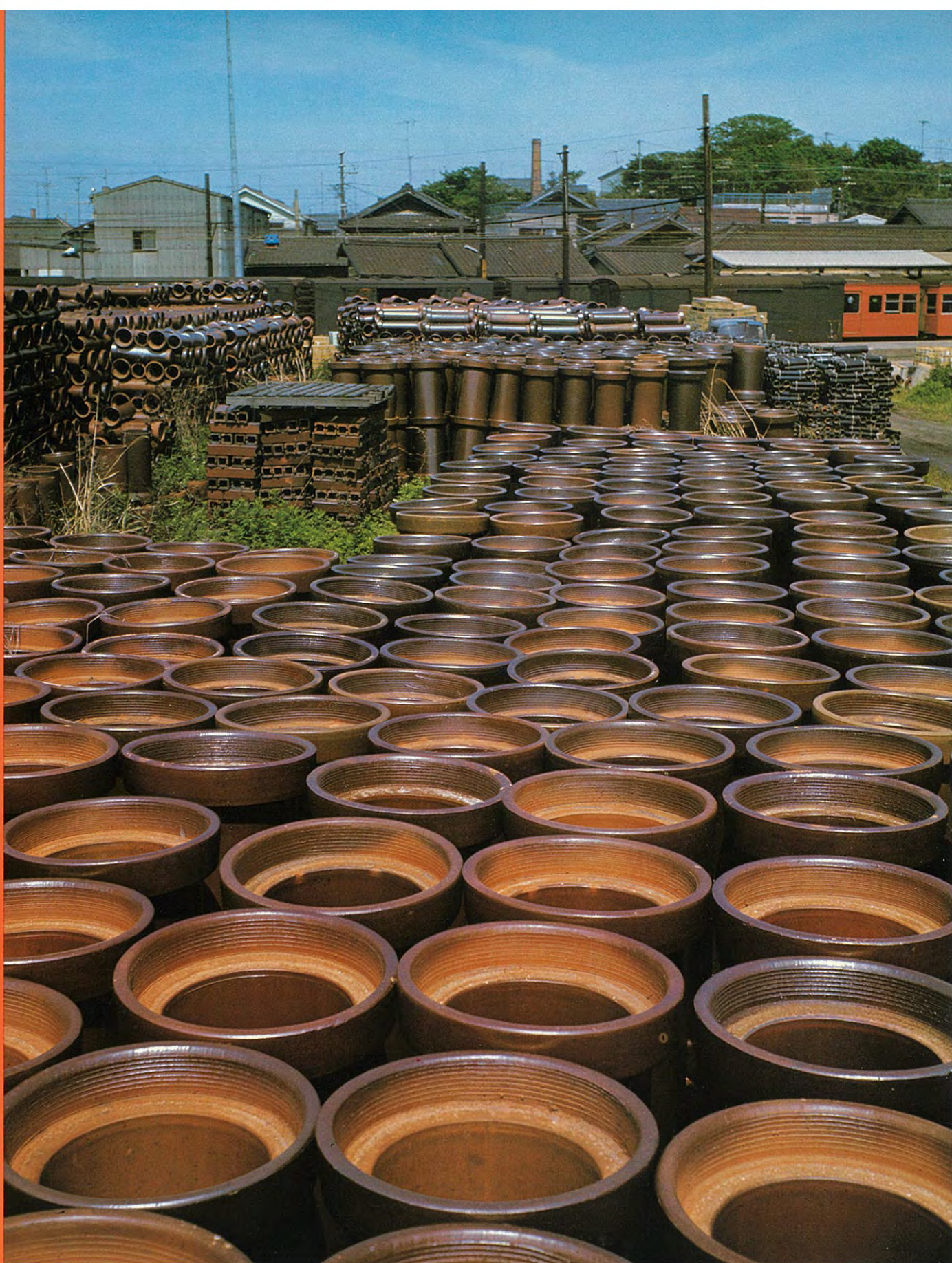
工 業

市の中心部には大小の製陶工場がひしめいており、全国的に陶器の町として知られている。この常滑焼は遠く平安時代から良質の陶器の産地として伝統を誇り安政年間にはじまった朱泥（しゅでい）はそのさびた色のはだ合いと穏和な光が広く海外にまでもてはやされる当市独特の産物である。

明治以後、この朱泥に陶管などの建築陶器が加わり、現在は衛生陶器・タイル・建築ブロック等をはじめとして装飾および芸術品あるいは玩具・日常生活品など、はば広く生産を誇っている。

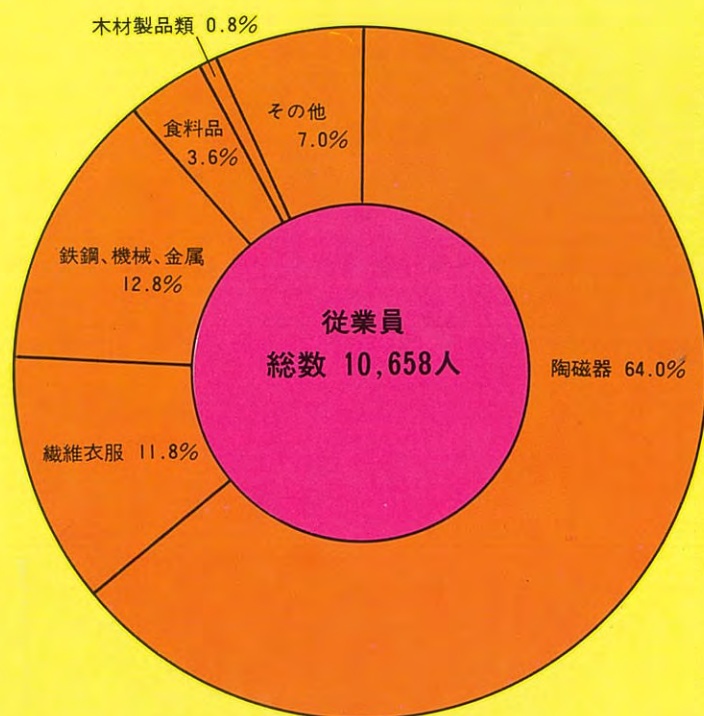
平安鎌倉の穴窯時代に制作されたダイナミックな古常滑は、今また優れた陶芸作家の輩出によりわが国陶芸界で高く評価されている。

このほか市の南、北部は知多木綿の産地として多くの織布工場がありまた、知多の酒で知られる醸造業も盛んである。



業種別従業員割合

49.12.31現在



業種別生産状況

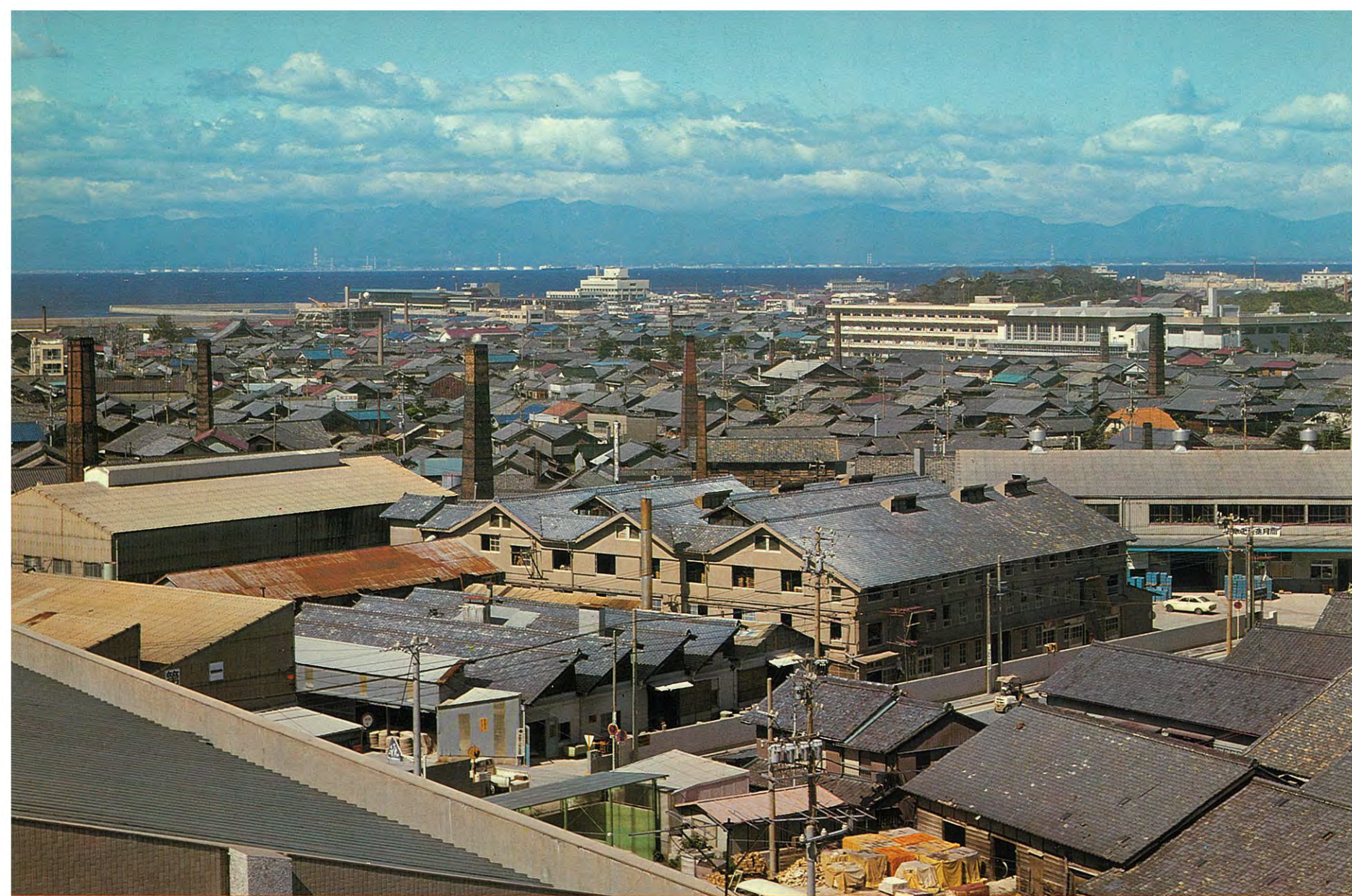
49.12.31現在

種 別	事業所数	従業員数	生産額
食 料 品	35	385人	359,142万円
織 維 工 業	89	1,048	442,481
衣服身回品	8	206	120,237
木材同製品	15	88	33,866
家具装備品	11	63	29,581
紙 同 製 品	12	213	193,218
出版印刷	4	78	41,650
窯業土石製品	467	6,826	3,686,221
鉄 鋼 業	7	493	578,256
金 属 製 品	32	254	141,836
機 械	30	430	433,286
電 気 機 器	3	59	8,461
輸 送 機 器	14	120	42,141
そ の 他	32	395	521,476
総 数	759	10,658	6,631,852

市商工会館 商工会議所

市内商工業者の念願であった会館の竣工と商工会議所の創立が昭和48年4月同時に行われ、市内商工業の振興のため有効に利用される一方、業界の各種相談所、講習会、講演会等のサービス業務をはじめ、業界内の研究、会議等業界はますます活気を呈している。

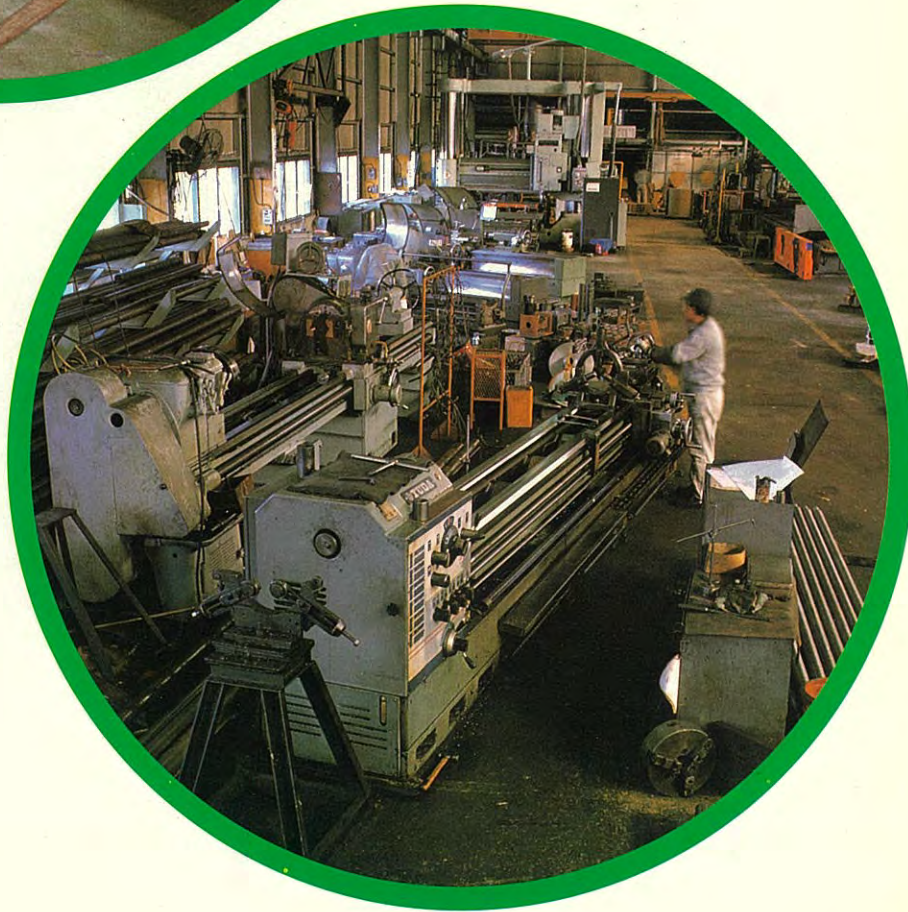




陶磁器の業種別生産状況

49. 12. 31現在

種 類	事業所数	従業員数	生 産 額	構成比
陶 管	58	440人	247,547 ^{万円}	6.7%
タ イ ル	29	2,784	1,814,884	49.3
衛 生 陶 器	22	1,068	603,638	16.4
食卓用厨房用陶磁器	67	404	117,909	3.2
置 物 玩 具	57	537	167,579	4.5
陶 磁 器 絵 付	16	60	9,155	0.2
植 木 鉢	127	951	423,538	11.5
石 こ う 製 品	20	117	36,287	1.0
そ の 他 の 窯 業	73	465	265,684	7.2
合 計	469	6,826	3,686,221	100.0



商 業

近年商店街単位で組織的な経営へと活動を始めている一部商店街では、名実ともに近代的な商店街づくりにとすでに資金の積立をはじめなど、近代経営に組みかえるべく合理的な商店経営の研究指導がなされているほか関係業者の協同化も進められている。

毎年開催される常滑焼まつりは陶磁器販売業者の相互協力により全国から愛好者が集まりにぎわいを見せる。





主な業種別販売推移

単位 万円

業種	年	43	45	47	49
陶磁器		393,113	277,077	321,342	401,861
酒・調味料		100,051	66,687	74,781	182,595
呉服		101,934	143,645	122,905	106,705
石油・石炭		119,273	166,147	171,168	286,393
菓子・パン		52,914	31,193	43,986	61,841
野菜		66,768	97,783	65,659	44,322

産業種類別調

昭和49年

産業分類	区分	商店数	従業員数	商品販売額
総	数	1,059	3,450人	3,118,225万円
卸	売業	104	686	1,626,740
小	売業	955	2,764	1,491,485
	各種商品	1	x	x
	織物・衣服・身回品	134	346	190,083
	飲食料品	353	959	464,206
	飲食店	113	352	78,249
	自動車・自転車等	36	109	79,107
	家具・建具・じゅう器	119	345	245,700
	その他の小売業	199	x	x
	医療品・化粧品	44	88	41,559
	農耕用品	13	45	48,475
	燃料	37	183	211,055
	書籍・文房具	29	166	44,737
	中古品	1	x	x
	その他	75	x	x

農 業

市内東部の丘陵地帯は農業振興地域の農用地区域に指定され、大部分が水田として利用されている。特に南北に走る愛知用水が昭和36年に通水されて以来、溜池にたよっていた当地の農業は雨期をまたずに作付できるなど、形態が一変された。又、現在行われている農村基盤総合整備パイロット事業及び第2次農業構造改善事業等によって近代農業に移行しつつあるが、耕地面積は若干ながら減少の傾向にある。

農業従事者は減少し兼業農家が増加している。自立農家は米を主体に畜産、園芸を取入れた複合経営で施設の近代化を進め、省力化による農業所得の向上をはかっている。

農業協同組合は昭和49年3月、6農協が合併、農家へのサービスと営農向上に努力している。



愛知用水

昭和36年10月に通水された愛知用水は、本市の東部、知多半島中央部を幹線水路が縦断し、本市の水源となって干害のない豊かな土地へと一大改革をもたらした。本市を通るこの幹線水路からは29本の支線によって農業用水が導入され、田約1,159Ha、畑約206Haが受益地となっている。さらに上下水道の大きな水源としてその役割は多大である。

農村総合整備事業

市内の市街化調整区域の全域(3,897Ha)の土地利用区分が明確にされ、それぞれの用途に適合する整地が行われるとともに、道路、用水路、排水路が充実され用水と排水は分離される。また、市街化調整区域にある既設集落の生活環境整備事業として、集落内の道排水路整備および農村公園も併せて施行され、営農に必要な農業近代化施設および大型機械の導入が図られ陶磁器工場等の集団化を図るための用地、緑地および公共施設用地等の用地も確保され自立経営農家の育成と住みよい町づくりの基盤整備が推進される。

なお、全域が1工区から6工区に分けられ1工区は昭和47年度、5工区は昭和48年度に国の採択を受け事業が実施されている。



水産業

本市の漁業は伊勢湾の長い海岸線に沿って、北から大野、鬼崎（蒲池、榎戸）荻屋、小鈴谷（大谷、小鈴谷）の漁港と常滑港を有し、沖合の各所に人工築磯が設けられ、伊勢湾内有数の漁業地である。

全国モデルケースとなっている樽水海岸のコンクリートパイル防波柵は水産界の注目をあつめている。近年はとくに海況の有利性から「のり」の養殖も盛んである。

漁業別水揚げ

昭和49年度

組合別	種別	魚貝類	のり	計
常滑 (272名)	数量	398,000 kg	45,103 千枚	842,984 千円
	金額	107,460 千円	735,524 千円	
鬼崎 (333名)	数量	377,000	80,005	924,083
	金額	124,954	799,129	
大野 (48名)	数量	11,000	14,799	219,034
	金額	3,003	216,031	
小鈴谷 (296名)	数量	670,000	67,986	967,620
	金額	83,802	883,818	
合計 (949名)	数量	1,456,000	207,893	2,953,721
	金額	319,219	2,634,502	





鬼崎漁港

鬼崎漁港は市内北部の漁業基地であり、新鮮な魚市場として活況を呈している。

漁港内にある“のり”種苗場からは良質の種苗が漁民に供給されている。



刈屋漁港・小鈴谷漁港

市内南部刈屋漁港は昭和39年に着工され、現在、第5次整備計画に基づき、51年度で完成される。

小鈴谷漁港は、昭和48年に着工し、56年度完成目標に工費約5億円で築造されている。

新しい 都市づくり

土木建築

明るく住みよい常滑市を……
本市の都市計画は、市制施行前の昭和27年7月1日常滑、西浦および鬼崎の三町、人口3万人を対象区域として制定されたが、その後社会情勢の変遷に伴い広域の都市計画が樹立された。このうち都市計画街路は昭和31年8月11日計画決定され、以後流動する地域社会の変化に対応し部分変更を加え、現在17路線総延長62,630mが計画されている。これら路線の内、知多西部線（国道155号線バイパス）は一部開通し常西線、大野久米線、瀬木線、北条向山線も着工される等、この都市計画に基づく街路事業は計画的に施行されている。また、新都市計画法に基づき市街化区域の設定、用途地域の8地域制への改正等により有効かつ合理的な土地利用計画が推進されている。





河 川

市政発展のためには、恒久的な治水対策が実施される必要があり改修基本計画の樹立を切望してきた結果、県では、矢田川水系全般にわたる基本計画が、あらゆる角度から検討され、昭和50年度から用地買収に着手された。

矢田川

改修区間は矢田橋から河口部まで3,500mで、河川の拡巾、掘さく、堤防の補強並びにこれらに伴う橋梁・樋管の改築等が行われる。

新川放水路

新川河口より約600mの区間が拡巾され、新川流域から集まる内水の排水路と矢田川から放水される排水路とを分離して放出される計画である。

前山川

改修区間は前山地内前山橋から矢田川合流点まで約2,400mで湾曲部が多いので、スムーズな線形に修正し、拡巾される計画である。



常滑球場（大曾公園）



大曾自然児童遊園



常滑プール（大曾公園）



常石公園



御岳公園

ゆたかな 環境

公園

市東部の丘陵地にある小高い山は伊勢湾を見おろす眺望の地としてハイキング、憩の場として市民に親しまれているが近年福祉行政の重点施策として、環境整備に重点を置く生活基盤整備型となり、市街地内の公園づくりが進められている。

本市は都市公園として、御岳公園・城山公園・大曾公園・陶芸村・高坂墓園を計画決定し、事業は昭和45年より大曾公園築造に着手面積17.4Ha内に夜間照明のある野球場、運動場、プール、児童遊園、弓道場、遊歩道、駐車場等の施設が設けられ、さらにテニスコートの建設が予定され公園づくりが推進されている。

下水道

下水道は都市生活を営むための生活環境を改善し、公共用水域の汚濁を防止し、又、雨水、汚水をすみやかに排除し、浸水等による被害を防除する施設である。

本市の下水道基本計画は昭和48年に大落他10幹線が変更計画決定され、順次実施されている。

現在までに着手された下水路は市街地の雨水の円滑な排除を目ざし、西之口、鬼崎、玉越、多屋北部、多屋南部、常滑北部、大落、輪ノ内各下水路があり、さらに強力に推進されている。



大曾公園



常滑競技場（大曾公園）

すこやかに育て

学校施設

学校教育は「機会均等」の主旨から小学校中学校の統合が行われ、その施設整備拡充には、最大の配慮がなされている。また、危険校舎の改築、人口増、社会増に対処するための増築工事を始めとし、児童生徒の学習効

果を高め、生活環境の合理化をはかるため、既設木造校舎を鉄筋コンクリート構造の永年建造物へと改良するための整備計画は年々推し進められ、昭和50年度の大野小学校第3期工事を最後に完了した。

また、児童、生徒の体位向上と健康増進、併せて市民総健康運動の一環としての体力づくりの場として、全小中学校に屋内運動場が建設され、教育施設の整備拡充は実にめざましい。

緑の学園づくり

三つ児の魂百までという。幼児はものごとを素直に受け入れる。

この素直な子供時代に交通安全と情操教育が熱心に指導されている。年々近代施設に改築される市内幼、保育園、小中学校はいずれも将来緑の学園として構想され、植樹が行われつつある。小高い丘に建ち、伊勢湾を見おろし、緑に囲まれた学園での情操教育は子どもらの将来に大きな期待をいだかせる。



市立学校規模(幼・小・中)

51. 4. 1 現在

校別	区分	生徒数等	学級数	教員数	校別	区分	児童数	学級数	教員数
三和東幼		101人	5	6人	三和小		425人	13	18人
三和南幼		119	6	7	大野小		623	18	25
常滑幼		160	6	8	鬼崎北小		430	12	17
合計		380	17	21	鬼崎南小		990	25	35
青海中		477	12	22	常滑小		1,912	48	58
鬼崎中		631	16	28	西浦北小		529	17	24
常滑中		867	22	38	西浦南小		272	10	15
南陵中		579	15	27	小鈴谷小		460	13	18
合計		2,554	65	115	合計		5,641	156	210

県立高等学校

昭和23年の教育法の改正により工業学校と高等女学校との統合で誕生した常滑高等学校と昭和50年に市の北部丘陵地に新設開校された常滑北高等学校の二校がある。

常滑高等学校は全日制と定時制があり、窯業、家政科の二課程が置かれ、又、常滑北高等学校は普通課程しか置かない全日制の高等学校である。



三和小学校



鬼崎北小学校



常滑小学校



西浦南小学校



大野小学校



鬼崎南小学校



西浦北小学校



小鈴谷小学校



青海中学校



常滑中学校



常滑北高等学校



鬼崎中学校



南陵中学校



常滑高等学校

市民体育会館

体育の日がはじめて国民の祝日となった昭和41年10月完成。公民館と体育館の機能を有するユニークな建物である。館内には、サーキットトレーニング室が設けられ健康で強く美しくをモットーに市民の多数がトレーニングに参加している。

別に市民会館的な利用もされ、施設利用は充分になされている。



ロールバックスタンド兼用
3F 競技場



サーキットトレーニング



競技場



第1会議室

市立図書館

市立図書館は、市民体育会館の隣りに、昭和45年着工され、同年8月31日に総工費1億3,800万円で完成し10月1日より市民に開館された。

館内の蔵書数は63,600冊余りあり広く市民に利用されている。

なかよし文庫

ブック・モービル

ブラウジング

一般閲覧室

学校プール

児童生徒の体位向上と健康増進をはかり、安全かつ、衛生的な水面で、水泳訓練の指導効果を充分高めるため、各小中学校にプール建設計画が進められ、まず、昭和44年に建設されたのを始めとし、年々建設され、12校全校に建設された。

標準型は水面25m×15m 高学年用5コース、水深1.10m～1.30m 低学年用2コース、水深0.60m～0.80mの地上盛土型で、アルミプールと鋼板製プールで浄化装置、更衣室、便所等附属設備も完備している。

市野外教育センター

児童生徒の自然環境に対する共同生活を通じて、心身の健全な発達を図ることを目的として、北設楽郡設楽町の町有施設旧八橋小学校に設置された。

新鮮な空気、緑の山々、涼しい夏、山間設楽町（常滑から車で3時間～3時間30分）は臨海の市内児童生徒には、活気に満ちた共同生活の場が与えられている。

市柔剣道場

市柔剣道場は、市民総スポーツをスローガンに体育・スポーツの振興をはかるため、昭和50年3月に完成された。

建物には、柔道場、剣道場などが備えられ、社会体育と学校体育を両立させ、有効に利用されている。





北調理場



南調理場

学校給食共同調理場

昭和40年4月、常滑市学校給食共同調理場として完全給食（A型 毎週5回）が実施され、さらに昭和45年4月から北調理場が開設され、市内小中学校並びに幼稚園、保育園の給食を共同調理場で一本化し、完全給食が実施された。

両調理場の給食可能数は12,000食で、現在実施校（園）は小学校8、中学校4、幼稚園・保育園21の合計33施設、12,000食の給食が実施されている。

施設は大別して調理室、洗浄室とを区分して設計され、特に北調理場には栄養指導センターが設置され、市内一般、婦人団体の栄養調理指導並びに研修が行われている。

明るく ゆたかに

保育園

市内の保育園は全部市立であり18施設2,834名の園児を受け入れ、さらに14園で乳児保育185名を保育、それぞれ各施設の整備拡充は最大の努力がなされている。

社会福祉

生活保護をはじめ児童、老人、母子、身体障害者ならびに精神薄弱者など福祉各法の趣旨にしたがい援護、育成および更生のための業務がなされている。昭和46年1月、他都市に先がけ高令者医療費無料化の実施、老人年金の給付さらに養護老人ホームの建設、マザーズホームの設置など、福祉事業は積極的になされている。



(51. 4. 1現在)

園 別	認 可 年 月 日	定 員		実人員	保母数	園 別	認 可 年 月 日	定 員		実人員	保母数
		乳 児	幼 児					乳 児	幼 児		
三和西保育園	36. 10. 27	5	145	108	7	梶間 保 育 園	47. 4. 1	20	100	91	12
青 海 保 育 園	49. 6. 1	5	245	141	9	丸 山 保 育 園	49. 9. 1	10	190	161	12
大 野 保 育 園	23. 4. 1		130	141	8	大 曾 保 育 園	51. 4. 1		120	62	5
鬼崎北保育園	29. 6. 1	13	267	247	14	西浦北保育園	23. 4. 1	20	180	189	13
鬼崎中保育園	44. 1. 1	20	200	280	17	西浦中保育園	31. 3. 31	8	142	106	8
鬼崎南保育園	27. 6. 30	20	260	324	22	西浦南保育園	25. 5. 22	15	165	138	11
常滑北保育園	24. 7. 1	20	230	303	21	桧 原 保 育 園	51. 4. 1		60	38	3
常滑南保育園	28. 6. 19		120	85	5	小鈴谷北保育園	31. 10. 1	9	191	134	9
常 石 保 育 園	42. 4. 1	10	165	172	11	小鈴谷南保育園	38. 4. 1	10	110	114	8
計 18 園								185	3,020	2,834	195



三和西保育園



鬼崎南保育園



丸山保育園



西浦南保育園



青海保育園



常滑北保育園



大曽保育園



桜原保育園



鬼崎北保育園



常石保育園



西浦北保育園



小鈴谷北保育園



鬼崎中保育園



梶間保育園



西浦中保育園



小鈴谷南保育園



養護老人ホーム

市立養護老人ホームは緑と自然に恵まれた市内金山地内に、50人の老人が生活できるように建設されており、建物は鉄筋平屋建（食堂、集会室、医務室、管理室等）と2階建（居室）の2棟1,360㎡。

ホームでの生活は心身の健康保持のため日課を定め、毎日を楽しく有意義にすごせるよう趣味のクラブ活動、講習会の開催、娯楽器具の設備あるいは一日バス旅行等々、希望に満ちた、いきがいのある生活ができるように配慮されている。



マザーズホーム

心身に障害のある児童（満18才未満）を対象に「早期発見・早期治療」を主方針として機能回復訓練、聴力言語指導、保育などで母と子がよりよい生活ができるよう訓練指導ができる施設である。



公営住宅

よりよい生活向上を目指し、現在までに386戸の公営住宅が建設され、住宅供給対策の一環として利用されている。

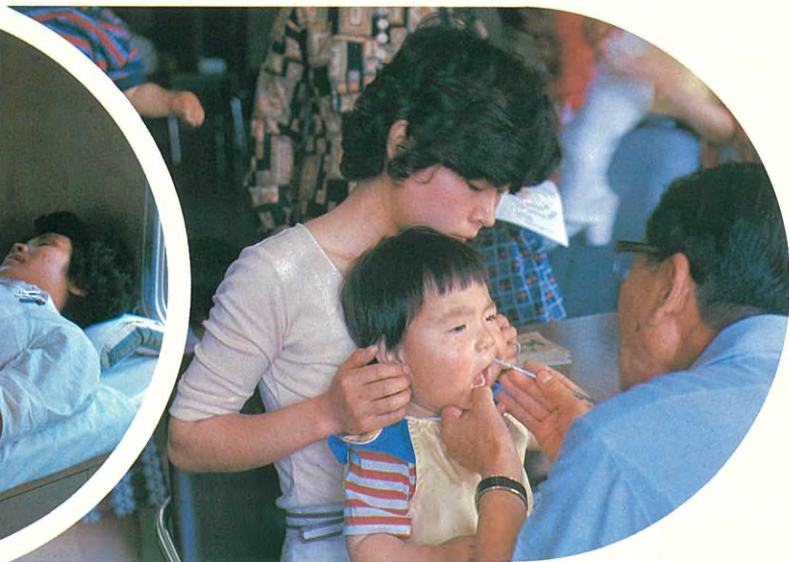
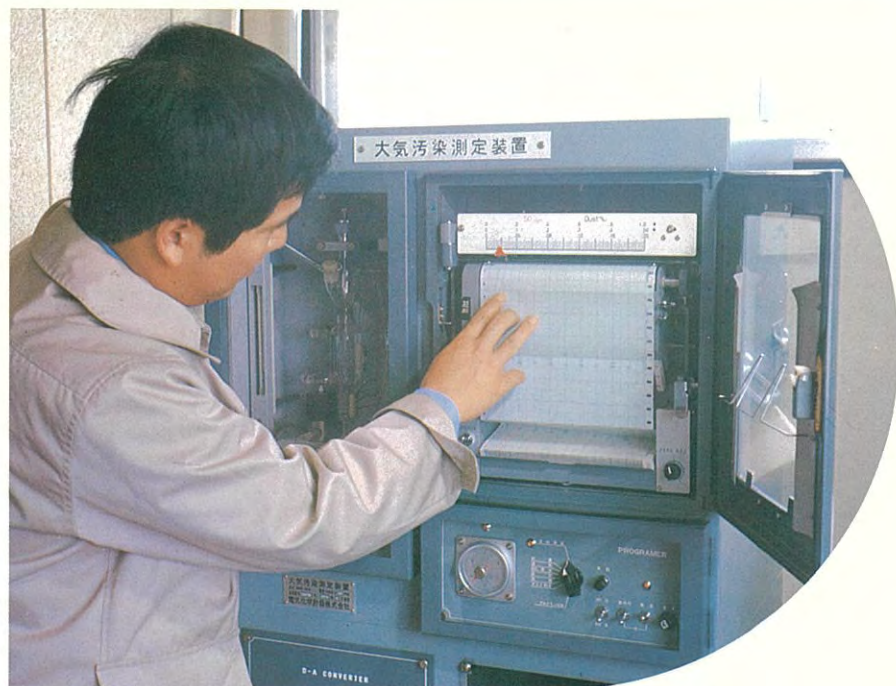


よりくらしよく

衛生

市民の健康を守り、住みよい生活環境を保全する立場から予防接種、結核健康診断、成人病健康診断、乳幼児健康診断および母子保健事業、献血推進事業、衛生教育事業等を定期的に実施し市民の健康管理がなされている。

また、生活環境の保全については、エンジンダスターによる屋内消毒を始め防疫薬剤の全戸一斉配布により、ハエ、蚊、ネズミ等の防除が実施されているが、最近特に深刻化してきた公害問題は大気汚染測定装置等の設置により汚染の実態を調査するとともに、企業とも連絡を保ちつつ事業所等の改善指導、苦情処理にあたっている。





ごみ処理

家庭から排出される廃棄物は、生活水準の向上、化学製品の利用拡大に伴い、複雑化し、排出量も年々増加している。これらの処理は、週2～3回の収集体制をとり、業者委託により、清掃車9台で回収され、49年に常滑武豊衛生組合（常滑市、武豊町）において建設された1日150トンの焼却能力をもつ、最新鋭焼却場で焼却処理が行われている。また、不燃物は埋立処分が行われている。

し尿処理

現在の汲取世帯は約70%と推定されているが、これらの収集業務は、市内2業者に委託され、バキューム車7台で収集が行われている。

これらの処理は中部知多衛生組合（常滑市、半田市、武豊町）において、49年に1日200キロリットルの処理能力をもつ最新鋭の湿式酸化処理施設を建設し、化学的処理が行われている。



安全な くらし

交通安全

市民の健康で安全な暮らしを守るために、交通安全の推進は市が主体となってすべきものである。このため市長を中核とし、警察、市議会、教育委員会、交通安全協会等が一体となった全市的推進組織を確立〈実行〉を合言葉にたゆみなき実践活動が展開されている。

昭和40年子どもを守る会（ママさんグループ）が結成され、引きつづき、幼、保、小、中一貫した交通安全カリキュラムを策定、徹底した交通安全の指導と教育が続けられている。

さらに43年3月には市の中心部に交通安全センターを開設、幼、保園、小中学校の交通コーナーの整備と相まって交通安全道場として大きな機能が果されている。

また、毎日の「おはよう」運動は子どもたちから一般市民に広く波及、交通事故のない明るい町づくりのため全市民の力強い実践は年ごとにすぐれた成果があげられている。

市民の交通災害共済事業は加入率96.7%と全国各都市に類のない立派な成績があげられている。



交通安全センター



交通安全
きょうも元気で



防火と救急

水火災から住民の生命、身体及び財産を護るとともに、近年その予防を主体としている消防は、本市が海岸線が長く、台風、津波等による災害の防止及び火気を多量に取り扱う窯業地を主体とした特殊産業都市であることから、水火災及びすべての災害の予防と、その被害の軽減に特に重点が置かれ消防活動がなされている。

昭和29年市制施行とともに、消防団も従来の地域的消防団を脱皮し、連合会組織がつくられ、機械化少数精鋭主義をとり、更に昭和31年統合、また昭和40年1月常備消防本部、署を設置すると同時に庁舎が建設され、更に昭和49年度北部詰所、昭和50年度南部詰所を新設し、年々その強化を図るとともに、水火災の予防思想の普及がなされている。

火災・救急状況 昭和50年

火災発生件数 43件

救急発生件数 651件





市民の安全を守る

市内鯉江新開地内、官公庁街の中心地に昭和48年4月、愛知県常滑警察署が開署された。

管轄区域は常滑市全域、署長以下2課、10係、2派出所、3駐在所、83名の署員が日夜本市の治安にたずさわっている。交通死亡事故の抑止、暴力犯罪の徹底検挙、市民の日常生活を守る警察活動の強化は、指標の重点であり、市民の期待と信頼はきわめて大きい。

また、住民の地域防犯組織として常滑市防犯協会があり、28名の地区支部長と469名の委員が配置されている。



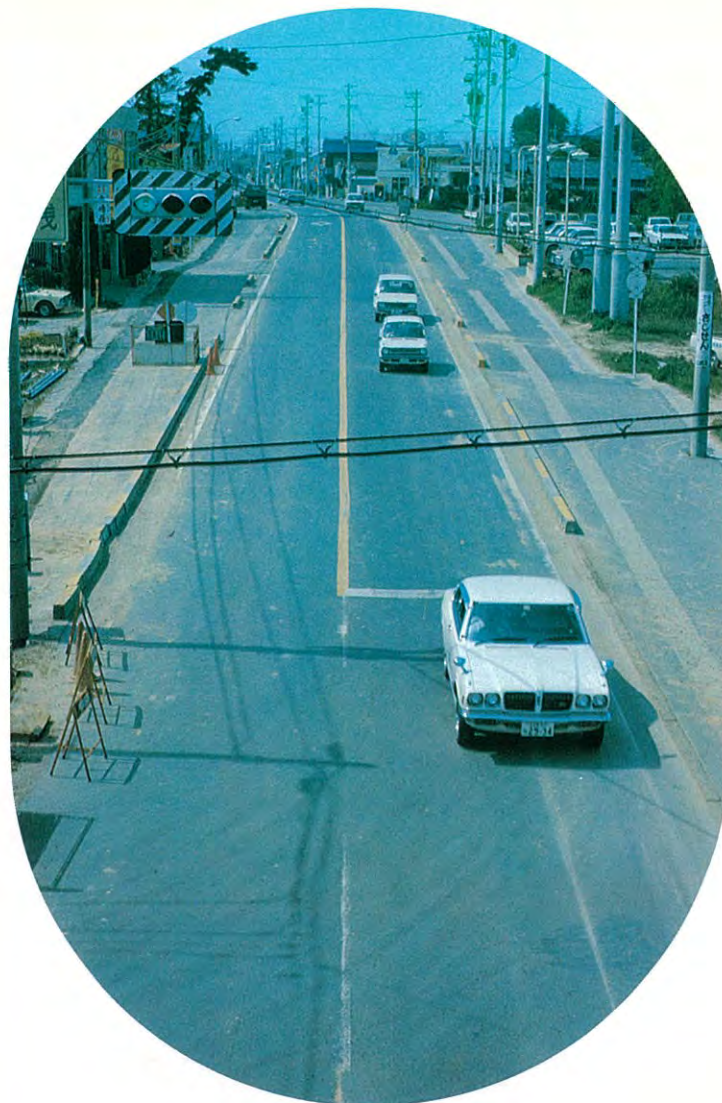
市民の くらし

交通

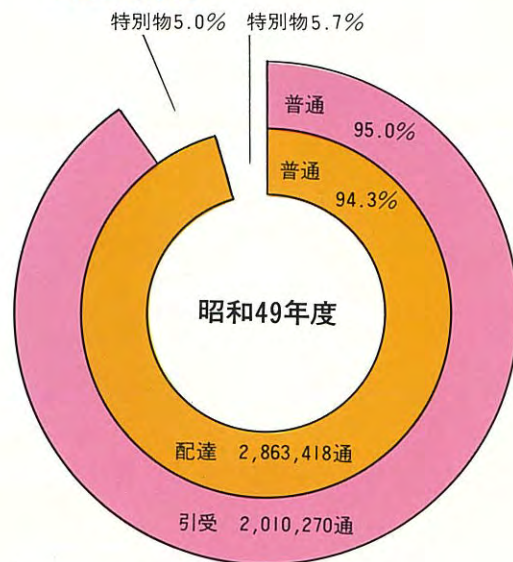
本市は、名古屋駅から名鉄常滑線の終点常滑駅に40分で到着する。市内に6駅があり1日平均2万余人の乗降がある。大半は名古屋方面への通勤、通学であり、このほか観光地知多半島南端あるいは半島の東側半田方面へは常滑駅から定期バスが利用される。一方国道は247号線が南下し、また知多中央道路とも結んでおり交通の便は良い、朝夕の通勤時に自転車、バイクの多いのも本市の特徴である。

郵便

郵便集配の敏速化能率化は、昭和38年機構改革が実施され、集配の1本化が計られ、常滑郵便局を普通局に昇格させる一方、集配特定局1、無集配特定局7の合計9局とした。



郵便状況



名鉄電車市内各駅利用状況

昭和49年			
駅	別	1年間乗降客	1日平均
常滑		3,843 千人	10,529 人
多屋		96	263
榎戸		447	1,225
蒲池		336	921
西ノ口		449	1,230
大野町		2,895	7,932

市内自動車保有台数

昭和49年度

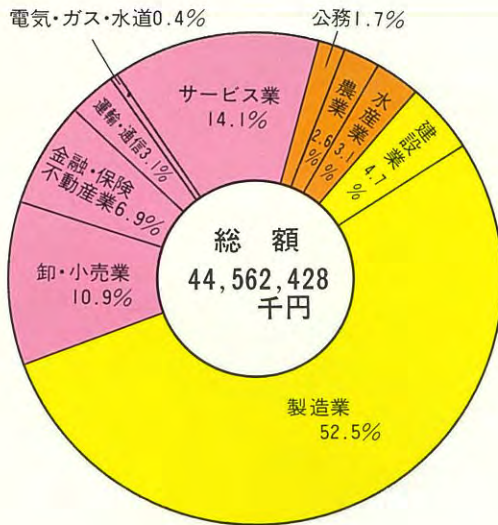
種別	原付自転車		二輪小型自動車	軽自動車			小型特殊自動車
	一種	二種		二輪車	三輪車	四輪車	
台数	4,410	1,781	74	103	96	7,070	659

貨物用				乗合用		乗用	その他
普通車	小型四輪車	小型三輪車	その他	普通車	普通車	小型四輪車	
510	2,317	293	4	79	24	6,916	195



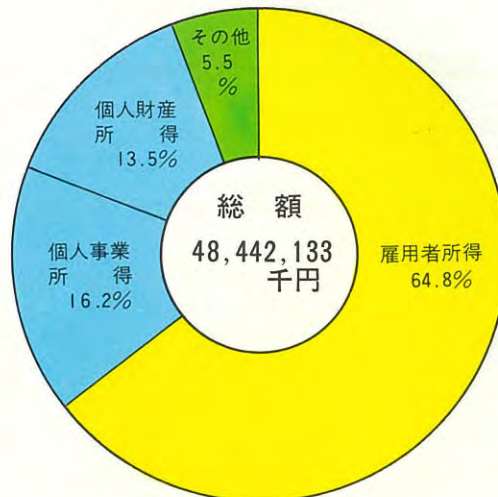
市内純生産額割合

昭和48年



市民個人所得割合

昭和48年



人口密度
1 km² に1,108人



テレビ
1.05世帯に1台



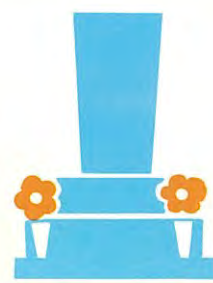
電話 1.18世帯に1台
有線電話1.44世帯に1台



水道
1日1人に277ℓ



出生
1日に2.80人



死亡
1日に1.03人



転入
1日に4.1人



転出
1日に5.4人



交通事故
1日に0.52件



火災
10日に1.21件



救急出動
1日に1.87件



市税
1人当り28,196円



警察官
市民741人に1人



医師
〈医師及び歯科医師〉
市民814人に1人



乗用車
1世帯に0.51台



商店
12.73世帯に1店

観 光

鬼崎漁港(ヨット)

鬼崎漁港はヨット基地として日本屈指の最適地として名古屋大学を始めとし大学、実業団の艇庫が置かれており、大型艇約30隻、小型艇約120隻が基地として利用し、近年、市の港づくり基本方針が立てられ、漁港関係者、ヨット関係者が、それぞれ港づくりに協力運営している。

太平洋を横断した「チタ2世号」グループの基地であり、毎年全国のヨット競技が行われる。



大野・坂井海水浴場

市内には大野海岸と坂井海岸に海水浴場がある。このほか砂丘のある鬼崎地区の海岸一帯も海のレジャーを楽しむ人でにぎわう。ことに家族連れでにぎわう大野海水浴場は潮湯治といわれ、古来親しまれた海水浴場として世界最古といわれている。

名古屋中心部から40分の近距離にあり、波静かな伊勢湾に近代的施設を完備し、家族ぐるみのレジャーに快適な県内有数の海水浴場である。遠浅の坂井海岸は春の潮干狩りに夏は海水浴、海釣りなどににぎわう。



焼物散歩道

焼物散歩道は、だれでもが気軽に陶都のふんい気に溶け込めるコースとして、訪れた人を楽しませている。





絵付け

だれでも、いつでも、きがるに焼き物に親しむ絵付け。書、画、座右銘などのオーソドックスからサイケ調までいろいろ。

絵付けの良さは楽しみながら陶芸に接し、特色ある地域芸術の理解と認識を深めることにある。

市立陶芸研究所の工房は焼き物の研究と絵付けに訪れる人は絶えない。



海釣り

伊勢湾に臨む海岸線一帯は沖釣り、磯釣りが盛ん。沖釣りは常滑鬼崎および大野から釣り船がでてキス、コチ、マダカ、フグ、ズイカニなどがよく釣れる。

春から秋にかけて釣り大会も盛んに開かれる。磯釣りは海岸一帯の防波堤で、アイナメ、キス、チンタなどが釣れ、一日中太公望を味わう人も多い。



本宮山

知多半島第2の高地で、伊勢湾および三河湾を一望におさめ、眺望雄大なこの山は、ハイキング、キャンプ地として最適である。山頂は本宮を祠り、毎月1日が参詣日である。

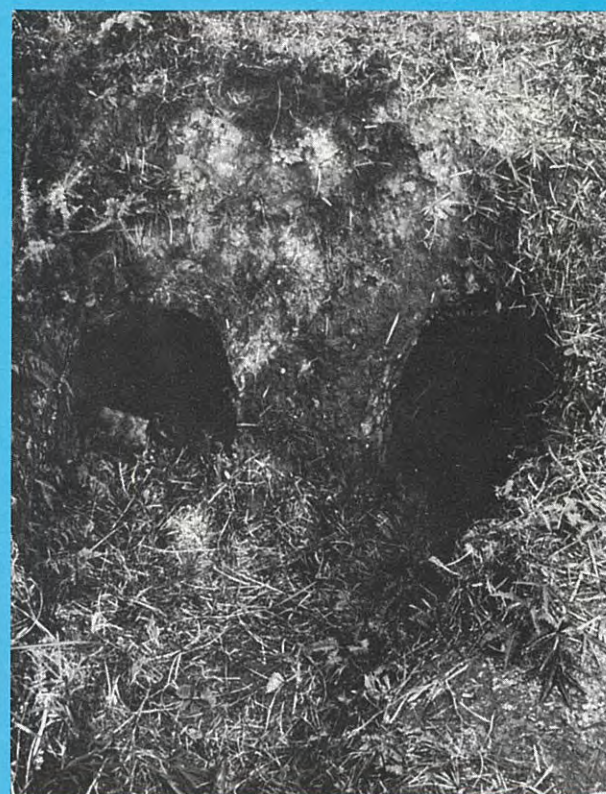
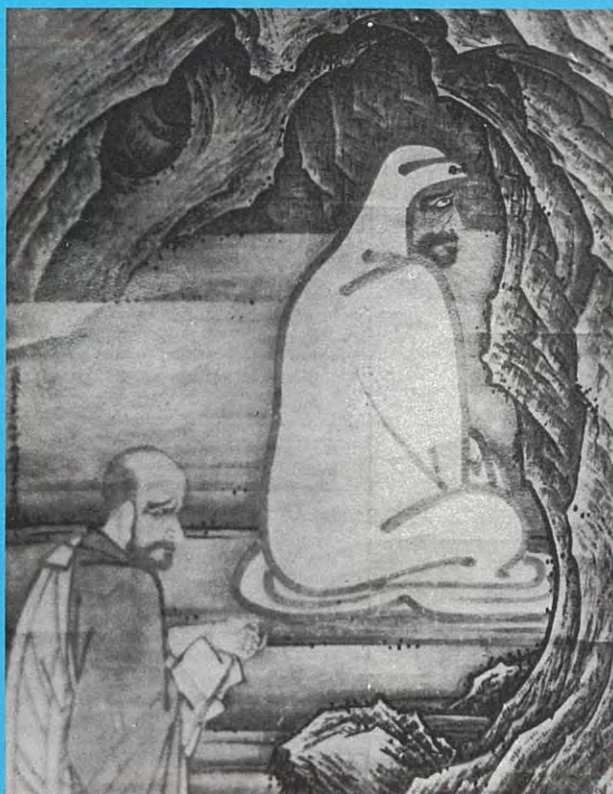
齊年寺・雪舟慧可断臂図

○国指定重要文化財

禅宗の始祖ダルマに、のちに第二祖となった慧可（えか）が弟子入りを請う姿を描いたもので雪舟77才の作品である。

古窯址

今から900年前の平安末期から、鎌倉、室町末期にかけて市内丘陵部一帯に3,000をこえる窯が築かれ、その古窯址群の規模の大きさは他に例をみない。これらの窯は丘陵斜面の砂層に穴を掘って、そのまま窯にした「穴窯」で附近の雑木を燃料としたようである。特に市内東北部竈池地内の古窯址は県指定文化財（史跡）となっている。



市内の国・県指定文化財

○国指定文化財

紙本淡彩慧可断臂図 1 幅（大野町齊年寺蔵）
常滑の陶器の生産用具及び製品 1,655 点
（常滑市教育委員会蔵）

○県指定文化財

高久隆古作品群 18 面（保示正住院蔵）
木造阿弥陀如来立像 1 軀（西阿野高讃寺蔵）
木造聖観音菩薩立像 1 軀（西阿野高讃寺蔵）
木造仁王像 2 軀（西阿野高讃寺蔵）
竈池古窯 1 件（久米字竈池）
多賀神社社叢 1 件（荻屋多賀神社）

高讃寺・仁王像

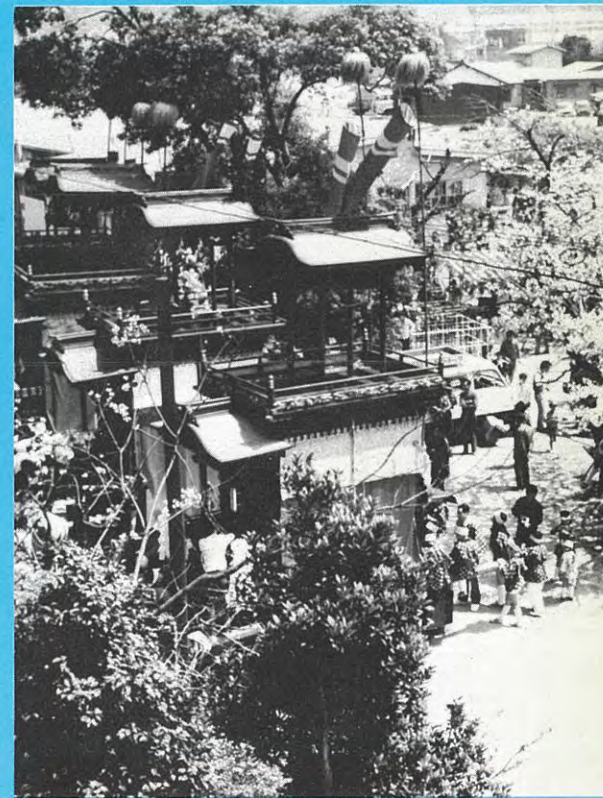
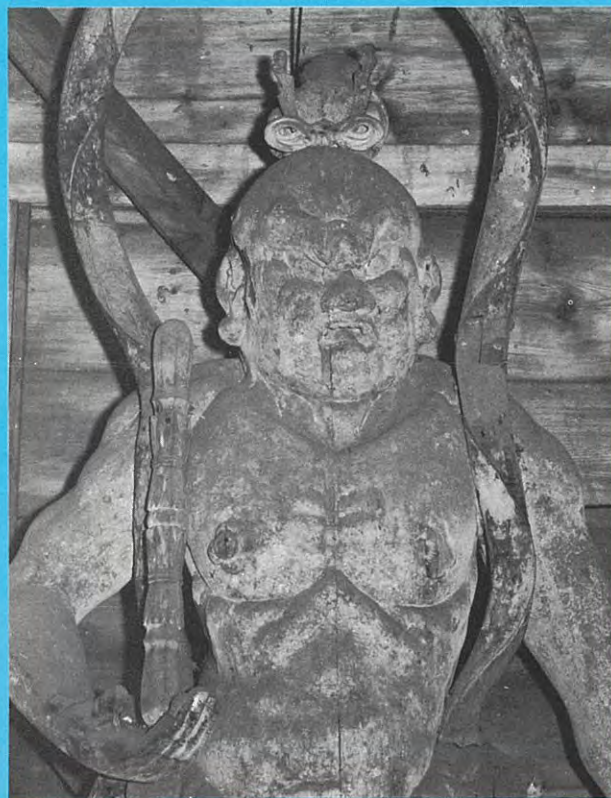
高讃寺は天武天皇勅願の霊場といわれ、往古300の坊宇があったが、数度の兵火で焼失し、現在は残りの一字のみであるが、境内の仁王門と周囲をおおう松、桜、楓が茂り寺蹟をしのばせる。仁王門にある仁王像2軀は鎌倉時代の作、このほか木造の阿弥陀如来立像聖観音菩薩立像があり、いずれも県文化財の指定をうけている。

大野城址

大野駅から東南へ2キロ、西之口駅から東へ1キロに位置し、佐治氏四代にわたる城址である。青海団地が隣接して造られ山容は一変しているが、本市北部と伊勢湾を一望におさめる眺望佳麗の地である。

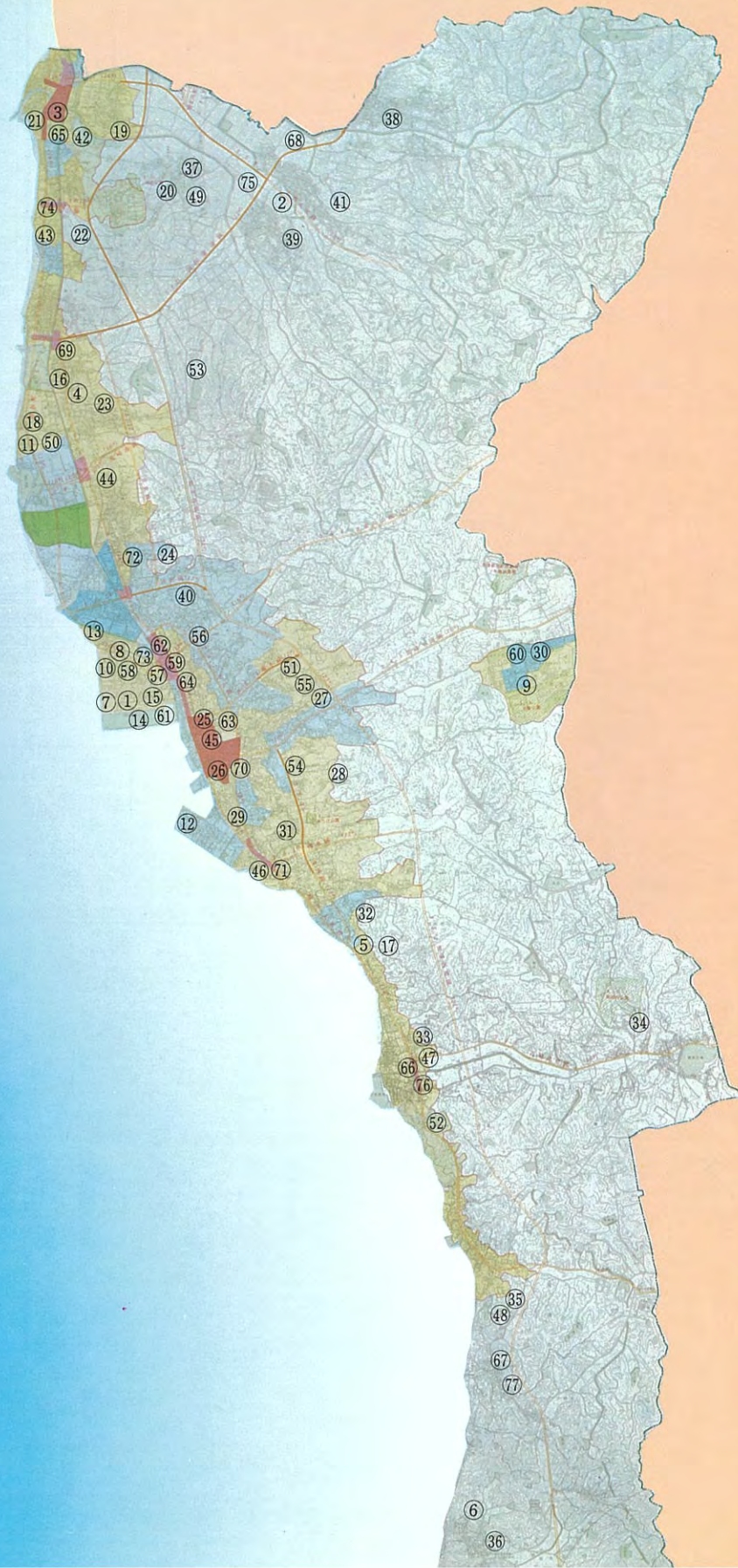
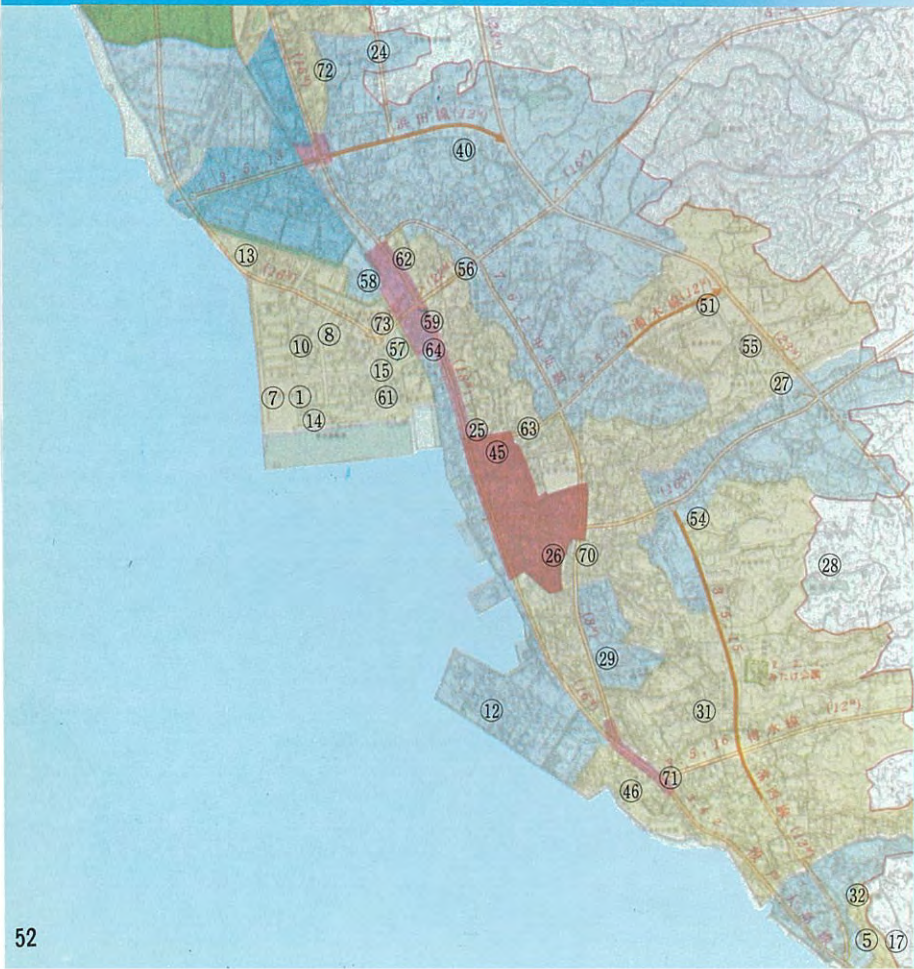
祭 礼

市内の祭礼は春祭りとして4月中旬に一斉に行われる。この日は山車、催しものと地区ごとに多彩を競い、全市を祭り気分であきたせる。



市内指定文化財一覧表

種 別 指 定 別	建 造 物	絵 画	彫 刻	工 芸 品	古 文 書	考 古 資 料	史 跡	天 然 記 念 物	民 俗 文 化 財	無 形 文 化 財	計
国指定重要文化財		1							1		2
県指定文化財		1	3				1	1			6
市指定文化財	1	4	7	71	1	3	6	5	5	10	113
計	1	6	10	71	1	3	7	6	6	10	121



市内官公署一覽

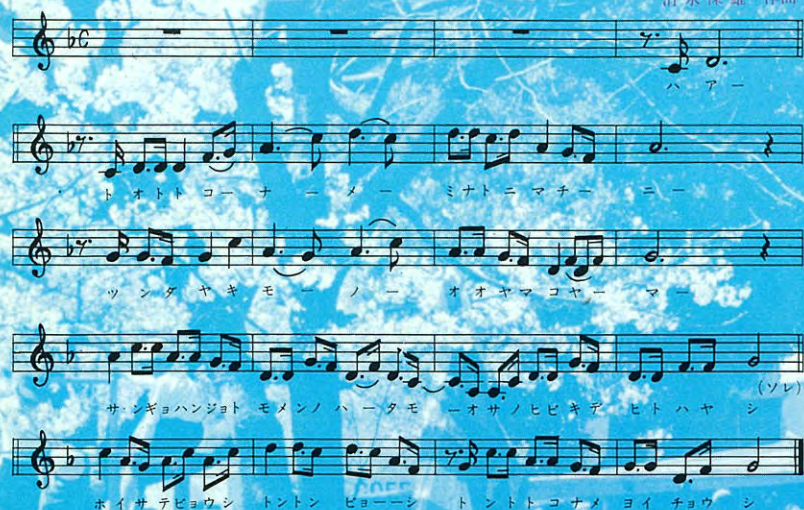
電話市外局番 常滑<05693> 尾張大野<05694>

	名 称	所 在 地	電 話	有 線
①	常 滑 市 役 所	字鯉江新開476	代(5)5111	各 課
②	三 和 出 張 所	久米字東前田46	大(2)0142	21-331
③	大 野 出 張 所	大野町6丁目36	大(2)0001	21-341
④	鬼 崎 出 張 所	榎戸字浜田93-2	大(2)0475	21-351
⑤	西 浦 出 張 所	熊野字南馬場32	(5)2369	21-361
⑥	小 鈴 谷 出 張 所	坂井字中田12	(7)0004	21-371
⑦	常 滑 市 教 育 委 員 会	字鯉江新開476	代(5)5111	21-291
⑧	常 滑 市 民 体 育 会 館	字鯉江新開14-83	(5)4611	21-441
⑨	大 曾 公 園 管 理 事 務 所	字大曾20-11	(5)2797	55-163
⑩	常 滑 市 立 図 書 館	字鯉江新開14-97	(5)2217	52-117
⑪	北 学 校 給 食 共 同 調 理 場	榎戸字新田山43-1	大(2)0773	43-447
⑫	南 学 校 給 食 共 同 調 理 場	字保示400	(5)4001	59-134
⑬	常 滑 市 民 病 院	字鯉江新開1の1	代(5)3170	21-381
⑭	競 艇 事 業 部	字鯉江新開475	代(5)5211	21-411
⑮	常 滑 市 消 防 本 部(署)	字鯉江新開460	(5)2600	21-612
⑯	常 滑 市 消 防 署 北 部 詰 所	榎戸字浜田93-2	大(2)0352	21-352
⑰	常 滑 市 消 防 署 南 部 詰 所	熊野字南馬場32		21-363
⑱	常 滑 市 柔 剣 道 場	榎戸字鯨ヶ瀬21		44-141
⑲	常 滑 市 立 三 和 西 保 育 園	小倉町8丁目110	大(2)0769	29-337
⑳	" 青 海 保 育 園	金山字油手6	大(2)4333	28-156
㉑	" 大 野 保 育 園	大野町8丁目67	大(2)1400	31-685
㉒	" 鬼 崎 北 保 育 園	住吉町5丁目36	大(2)0612	42-635
㉓	" 鬼 崎 中 保 育 園	榎戸字金荒子182	大(2)0772	43-335
㉔	" 鬼 崎 南 保 育 園	多屋字森後39	(5)2877	45-667
㉕	" 常 滑 北 保 育 園	字北屋敷8	(5)2437	53-694
㉖	" 常 滑 南 保 育 園	字市場93	(5)2723	57-283
㉗	" 常 石 保 育 園	字樋掛43	(5)4823	55-324
㉘	" 梶 間 保 育 園	字梶間41	(5)6659	58-427
㉙	" 丸 山 保 育 園	字西平井13-1	(4)4114	58-137
㉚	" 大 曾 保 育 園	字三ッ池33-1	(4)3116	55-111
㉛	" 西 浦 北 保 育 園	樽水字平井145	(5)3147	61-737
㉜	" 西 浦 中 保 育 園	西阿野字唐崎85	(5)3152	63-237
㉝	" 西 浦 南 保 育 園	古場字廻間55	(5)4100	65-432
㉞	" 桧 原 保 育 園	桧原字神水1-1	(4)3117	66-282
㉟	" 小 鈴 谷 北 保 育 園	大谷字井戸尻13	(7)0164	71-115
㊱	" 小 鈴 谷 南 保 育 園	坂井字中山25	(7)0055	74-388
㊲	" 養 護 老 人 ホ ー ム	金山字屋敷30-1	大(2)0771	27-135
㊳	" 三 和 東 幼 稚 園	矢田字東根組37	大(2)0143	24-597
㊴	" 三 和 南 幼 稚 園	金山字平井120	大(2)0774	26-361

	名 称	所 在 地	電 話	有 線
④①	常 滑 市 立 常 滑 幼 稚 園	字原松45	(5)2124	51-583
④②	" 三 和 小 学 校	久米字諏訪山30	大(2)0749	25-348
④③	" 大 野 小 学 校	大野町10丁目70	大(2)1011	31-721
④④	" 鬼 崎 北 小 学 校	住吉町2丁目56	大(2)0222	41-667
④⑤	" 鬼 崎 南 小 学 校	多屋字名残82	(5)2422	45-972
④⑥	" 常 滑 小 学 校	字屋敷田3	(5)2104	21-451
④⑦	" 西 浦 北 小 学 校	樽水字塩田75	(5)2164	61-164
④⑧	" 西 浦 南 小 学 校	古場字栗下前5	(5)4002	65-431
④⑨	" 小 鈴 谷 小 学 校	大谷字井戸尻2-2	(7)0021	71-116
⑤①	" 青 海 中 学 校	金山字南平井13-1	大(2)0331	28-252
⑤②	" 鬼 崎 中 学 校	榎戸字新田山1	大(2)0221	43-436
⑤③	" 常 滑 中 学 校	字土取畑10	(5)2375	21-461
⑤④	" 南 陵 中 学 校	苅屋字加茂10	(5)4005	67-515
⑤⑤	県 立 常 滑 北 高 等 学 校	金山字四井池10	大(3)1151	26-115
⑤⑥	県 立 常 滑 高 等 学 校	字徳磯49-3	(5)2132	55-491
⑤⑦	常 滑 市 立 陶 芸 研 究 所	字樋掛45	(5)3970	54-151
⑤⑧	常 滑 市 陶 磁 器 会 館	字師ヶ谷25-1	(5)2033	53-652
⑤⑨	常 滑 市 商 工 会 館	字鯉江新開561	(4)3200	52-418
⑥①	常 滑 市 交 通 安 全 セ ン タ ー	字鯉江新開483	(5)5384	
⑥②	名 古 屋 法 務 局 常 滑 出 張 所	字中郷93-53	(5)2581	52-256
⑥③	愛 知 県 常 滑 業 業 技 術 セ ン タ ー	字三ッ池48-88	(5)5151	55-183
⑥④	愛 知 県 半 田 土 木 工 事 第 三 係 詰 所	字鯉江新開474	(5)2045	52-416
⑥⑤	愛 知 県 知 多 保 健 所 常 滑 支 所	字鯉江新開57	(5)2537	52-246
⑥⑥	常 滑 電 報 電 話 局	字屋敷田46-1	(5)4245	
⑥⑦	常 滑 郵 便 局	字中郷107	(5)2453	52-275
⑥⑧	尾 張 大 野 郵 便 局	大野町9丁目92	大(2)1906	
⑥⑨	尾 張 西 浦 郵 便 局	古場字柳76-3	(5)4257	
⑦①	小 鈴 谷 郵 便 局	小鈴谷字梶田73-1	(7)0750	
⑦②	尾 張 三 和 郵 便 局	久米字陸地4-4	大(2)1908	
⑦③	鬼 崎 郵 便 局	榎戸字新町南乙163	大(2)1909	
⑦④	山 方 郵 便 局	字山方118-1	(5)4258	
⑦⑤	樽 水 郵 便 局	樽水字鳥上山4	(5)4259	
⑦⑥	多 屋 郵 便 局	多屋字後条131-6	(5)4810	
⑦⑦	愛 知 県 常 滑 警 察 署	字鯉江新開559	(5)2410	21-511
⑦⑧	愛 知 県 常 滑 警 察 署 西 ノ 口 派 出 所	西ノ口8丁目58	大(3)1111	41-544
⑦⑨	" 久 米 駐 在 所	久米字西前田40-3	大(3)1125	25-114
⑧①	" 古 場 駐 在 所	古場字柳67-7	(4)5855	65-383
⑧②	" 小 鈴 谷 駐 在 所	小鈴谷字梶田25-1	(7)1333	72-327

常滑音頭

樋貝正幸 作詞
清水保雄 作曲



常滑小唄

樋原言賢 作詞
清水保雄 作曲

Slowly



常滑小唄

作詞 樋原言賢
作曲 清水保雄
振作 島田豊年

一、陶都千年 繁昌のけむり

西へ東へ 日も夜もなびく
八重の汐路の かぎりまで

三、のりの色香に たもとをひかれ

浸たる湯けむり 大谷坂井
小夜のしおさい 夢のなか

五、知多の木綿に 肌さえ匂う

粹なゆかたの あの娘の 酌で
地酒よいよい とんどろり

七、海のギャンブル ころもはずむ

うなるエンジン 風呼ぶレース
かける幸運 波の花

八、伸びる常滑 栄える街よ

五色モザイク 七色タイル
世界いろどる ころ意気

六、遠くかすむは 鈴鹿か伊勢か

君のヨットは 鬼崎あたり
楽し沖釣 なぎ日和

四、海はるり色 大野の浜辺

波は手招く しぶきにぬれて
可愛い人魚の みだれ髪

二、わたしや常滑 窯場の娘

想いつのれば 千度をこえる
熱い災の 恋もする

常滑音頭

作詞 樋貝正幸
作曲 清水保雄
振作 島田豊年

一、陶都常滑港に街に

積んだ焼物 大山小山
産業繁昌と木綿の織機も

おさのひびきで一囃子

ホイサ手拍子 トントン拍子
トント常滑よい調子

二、誰と大野か小鈴谷かけて

浜は七色水着の花を
ボートレースのしぶきが呼べば
すべるヨットの帆も招く

ホイサ手拍子 トントン拍子
トント常滑よい調子

三、木曽のたにみず黄金の穂波

寄せる小波夕日にはえて
熱い人情もいでゆの坂井

沖のえものは魚籠の中
ホイサ手拍子 トントン拍子
トント常滑よい調子

四、浮ぶ灯台潮路を照らす

明日をさす手は踊りの手振り
ゆめも大きく伊勢湾抱いて
知多の要の伊達姿

ホイサ手拍子 トントン拍子
トント常滑よい調子

昭和51年 9月 1日発行

常 滑 市 勢 要 覧

発行	常 滑 市 役 所
住所	愛知県常滑市字鯉江新開476
編集	秘 書 課
印刷	好 文 社

